

## 平成29年度第1回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：平成29年5月26日（金）午後2時

場所：犬山市役所401会議室

### ◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 委員 村上恵美子

委員 高木浩行

委員 千葉桂子

委員 紀藤統一

委員 奥村康祐

事務局 【経営部】

江口経営部長

企画広報課

松田課長

渡邊主査

【教育部】

吉野教育部長

小島子ども・子育て監

学校教育課

武藤課長

神谷主幹兼指導室長

田中課長補佐

記録者 渡邊 樹

傍聴者 4名

### ◆次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議題

(1) 平成29年度総合教育会議開催スケジュールについて

(2) 教育振興基本計画の見直しについて

(3) 教育施策の検証について

(4) 教員の多忙化について

(5) 民間教育者との意見交換について

4 自由討議

5 その他

6 閉 会

### ◆会議要旨

#### 議題(1) 平成29年度総合教育会議開催スケジュールについて

平成29年度の犬山市総合教育会議は、5月下旬、7月下旬～8月上旬、10月中旬～下旬、1月下旬～2月上旬の4回開催とし、協議の進捗状況によっては、追加で会議を開催することを確認した。

#### 【主な意見】

・教育振興基本計画は、第4回までにある程度の計画を形づくって、初年度が平成30年度ということとでよいか。→その予定である。

#### 議題(2) 教育振興基本計画の見直しについて

教育振興基本計画の見直し方針は、1. 教育大綱の対象期間に合わせて、平成30年度から平成34年度までの5年間の中期計画とする。2. 全体を総見直しして大綱の方向性を踏まえた具体策を落とし込むと共に子ども未来課関係の施策や取り組みの記載を追加する。3. 基本理念の実現に向けた各主体の目指す姿を位置付ける。4. 見直しにあたっては教育関係者など多方面の意見を聴取する。の

4点とし、スケジュールについては、定例教育委員会で随時協議をしながら、総合教育会議で市長と協議調整し、第4回の総合教育会議で最終調整して作業を完了することとする。

【主な意見】

- ・できる限りこれまで取り組んできたことは抑えて、これから何をやって行くのかを明確にする。
- ・教育改革の検証も行いつつ、その結果を基本計画にどのように位置付けるかを並行して考える必要がある。

議題(3) 教育施策の検証について

学校現場による内部評価だけでなく、教育委員を含む外部による客観的な評価を行うことも必要。検証にあたっては、今やっていることを前提で考えるのではなく、幅広く先進的な事例を調査した上で、ゼロベースで様々な角度から検証する。

【主な意見】

- ・まずは、自分たちで検証してから、外部の方にそれについて意見をいただくのが良いのでは。
- ・検証を行うことによって、教員が多忙化しないようにしなければいけない。
- ・教育委員会で協議した内容を市長に報告して意見をもらう部分と、総合教育会議で協議する部分を整理してほしい。

議題(4) 教員の多忙化について

通知表の「特記事項欄」の記入については、校長の判断で記入してもらってもよいこととする。夏季休校日を設けることについては、提言(案)どおり、お盆期間を休校日とする。部活動運営方針については、保護者や現場と合意形成しながら、効果が見えるように取り組んでもらいたい。

【主な意見】

- ・文で書かれるよりも、面と向かって話すことによって、先生と親とのコミュニケーションが図られる。
- ・保護者からすると、書かれたものは、年に2回の親と子のコミュニケーションとして大切にしたい。
- ・文章として渡そうとすると、6人の先生で4回ぐらい回すことになり、膨大な作業量になる。
- ・本当に部活をやりたくて仕方がない子、先生に配慮して、柔軟に対応できるようにできないか。

議題(5) 民間教育者との意見交換について

アンケートは参考にしつつも、実際にいつ、どういう形でやって行くのかという工程が見えるように進めていく。

【主な意見】

- ・突然意見交換会をやると、テーマがくちゃくちゃになってしまうので、まずはアンケートをおこなって、テーマを絞った方がいい。
- ・お互いに理解しあって、「犬山の子どもたちにお互いの立場で頑張ってくださいね」となるとよい。

◆会議録

司 会 (松田企画広報課長)	それでは若干、早い時間でございますが、お揃いですので始めさせていただきます。ただいまから、平成29年度第1回犬山市総合教育会議を開催させていただきます。開会に合わせて1点お願いを申し上げます。本会議は、犬山市総合教育会議運営要綱の第4条に基づきまして、公開とさせていただきます。併せてインターネット映像配信サービスのユーストリームで同時中継をさせていただきます。傍聴人の皆様におかれましては、まずご了承いただきたいと思っております。よろしくお願ひいたしま
-------------------	---

	<p>す。</p> <p>それでは開会にあたりまして、山田市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
山田市長	はい。皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
山田市長	<p>今年度第1回目の総合教育会議ということですが、特に教育長が滝教育長になられて最初の総合教育会議ということです。また、新しい教育長の下でもしっかりこの総合教育会議の中で犬山の人づくりのことにしっかり議論をして、いいものを共に作っていったらと思っておりますので、また今年度もよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>今年度、特に今日の議題にもありますが、昨年度の大綱の策定をふまえて、それを教育振興基本計画の中に落とし込んでいくということで、非常に重要な部分だと思っております。また、以前からも色々投げかけをさせていただいておりますこれまでの教育改革の検証も含めて、何点かにわたって議題がございますけれども、しっかり今年度も皆さんと意見交換をしながら、いいものを作っていったらと思っておりますので、また皆様方にはご指導を賜りますことをよろしくお願ひ申し上げまして私からの挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。</p>
司 会	それでは続きまして、滝教育長からご挨拶を頂戴いたします。
滝教育長	はい。皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
滝教育長	<p>このところ、暑い日が続いておりますけれども、昨日・今日とちょっと過ごしやすいい日になっておりますけれども、まず山田市長におかれましては、日頃、犬山市の教育委員会が進めていく教育行政に対しまして深いご理解と温かいご支援を頂戴しておりますことについて厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。</p> <p>新しい教育委員会制度の下で、29年度がスタートして2か月ほど過ぎました。私は昨年度はちょっと自由のきく仕事でありましたので、比較的毎日をゆったりと過ごしておったんですけれども、この4月からは土曜・日曜も何かかんかであることが多く、その度に市長の顔を見るんですけれども、教育委員会関係の仕事の私がこれだけ出ていかなければならないのに、市長はここの部局の仕事を含めてほとんどー私以上に…よく体がもたれるな、というふうに感心をいたしております。スーパーマンでないと市長はできないな、ということに改めて思っているわけでありましてけれども。</p> <p>そんな中で新しい教育委員会制度の下では教育の中立性、安定性、継続性を担保するために、市長部局から独立しながら市長と教育委員会が連携を強化して、また、時には国が関与することもありうるというのが、この新しい教育委員会制度の狙いではないかな、というふうには私は受け止めているわけでありましてけれども。</p> <p>これまで犬山市が進めていた教育施策であります、「犬山の子は犬山で育てる」という覚悟の下、一人ひとりにきめ細やかな授業を行うために学校現場に少人数学級、少人数授業、TTのための常勤講師・非常勤講師を配置して参ったわけでありまして、これは犬山市教育委員会の権限でもあり、責任でもあるというふうには私は考えております。学校現場で本当に一人一人にきめ細やかな指導がなされているかどうか、子どもたちが確かな学力、豊かな心を身に付けているかどうか。それを検証していく責任が教育委員会にはあるというふうには私は思っております。一方市長の側とされれば、教育委員会の教育施策をお認め頂いて、予算を編成していただくという権限があると同時に、またこれは責任があるというふうには思っております。従って教育委員会が当初の目的を達成できているかどうか、これを検証していく責任をお持ちだというふうには</p>

	<p>私は思っております。いずれにしましても市長と教育委員会とが同じ目標に向かってそれぞれの役割をきちっと果たしていく、こういった関係がなければ望ましい教育行政を進めることができないものというふうに私自身は思っています。</p> <p>今日のこの総合教育会議は市長と教育委員会との連携を深める重要な機会であるというふうにとらえております。教育委員会といたしましては、開かれた教育委員会を目指して今、頑張っているところでございますので、今後ともよろしくお願いをいたします。以上です。</p>
司 会	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>なお、本日は田中委員がご都合によりご欠席との連絡をいただいております。</p> <p>本年度もアドバイザーといたしまして、犬山高等学校の祖父江校長先生、そして犬山南高等学校の木和田校長先生にご出席していただく形ですが、本日お二人とも校務、行事のためご欠席となっております。また、昨年度までアドバイザーといたしまして、名古屋経済大学の伊藤博美教授にお入りいただいておりますが、この4月1日におきまして、他の大学に転籍をされております。大学との連携との意図でアドバイザーのご就任をお願いしておりましたが、現在、本会議には名古屋経済大学の田中委員がおられますので、後任のアドバイザーの選任をしておりません。ご報告をさせていただきます。</p> <p>それでは議事に入ります前に本日の資料の確認をさせていただきたいと思っております。お手元の次第、そして名簿に続きまして、資料1でございます。「平成29年度総合教育会議の開催スケジュール（案）」でございます。資料の2。「犬山市教育振興基本計画の見直しについて」でございます。資料の3は「校長会と教育委員会による教育施策に関する検証作業部会」A4の横でございます。資料の4につきましては、「教員の多忙化解消に向けての対策及び働き方改革を目指した新たな提言（案）」でございます。最後、資料の5につきましては、「犬山市部活動運営方針（案）」でございます。以上、資料の1から5でございますが、お揃いでしょうか。</p> <p>それでは、議事の方に移らせていただきますが、これ以降は犬山市総合教育会議運営要綱の第3条に基づきまして、山田市長に議事の進行をお願いいたします。</p>
山田市長	<p>はい。では、私の方で進行させていただきます。</p> <p>まず、議題1ですが、本年度のスケジュールを事務局の方からお願いします。</p>
事務局 (渡邊企画広報課 主査)	<p>はい。それでは「平成29年度 総合教育会議開催スケジュール（案）」で、資料1をご覧ください。こちらに基づいて説明をさせていただきます。</p> <p>今年度も昨年度同様、年4回の会議の開催を予定しております。開催時期といたしましては、第1回の会議が本日、5月26日の金曜日に開催をさせていただいております。第2回の会議につきましては、7月中旬から下旬ーもしくは8月上旬ぐらいになるかも知れませんが、その辺りで調整をさせていただきたいと考えております。第3回は、10月中旬から下旬。そして第4回を1月下旬から2月上旬辺りで開催させていただきたいと考えております。</p> <p>協議の内容につきましては、「教育振興基本計画の見直し」に関することを年間を通じて協議させていただきたいと考えております。</p> <p>それから第3回の会議におきましては、例年通り次年度ー平成30年度の教育関係予算についてご協議いただく予定となっております。その他の協議内容につきましては、本日も幾つか協議議題として出させていただいておりますけれども、そちらの議論の経過等も踏まえつつ、その都度決定をさせていただきたいと、このように考えております。</p>

	<p>こちらに今、予定されている4回以外にも協議の進捗状況によっては開催をお願いすることがあるかと思っておりますので、その際にはよろしくお願ひいたします。</p> <p>それから4回のほかに一番下に「緊急会議」というものがございますけれども、こちらにつきましても、法に基づきまして、「児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生じるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置」ということで、本来、あつてはならないことですが、こういった緊急な事態が起こった際には皆様にお集まりいただくということになりますので、よろしくお願ひしたいと思います。事務局からの説明は以上です。</p>
山田市長	はい。会議の予定は一応、ここに年度4回ということですが、会議の内容も協議の進行に応じて議題もそれに合わせて設定していくということだね。
事務局 (渡邊企画広報課 主査)	はい。
山田市長	それから日にちも状況に応じて、臨時というかプラスアルファでやることも想定していると、こういうことでした。ということで、皆さんよろしいですか。
村上委員	1点、質問、よろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員	第4回のところで、「教育振興基本計画の見直しについて」というふうにあるんですが、次のところの振興基本計画が30(年)から34年までの5年間ということは、第4回のところである程度の振興基本計画ができて、「その初年度が30年度ですよ」という考え方でいかどうかの確認だけさせてください。
山田市長	それでいいんじゃないかな。
事務局 (武藤学校教育課長)	はい。その予定です。この後、また次の議題のところの説明させていただきます。
村上委員	わかりました。
山田市長	ということですので。
村上委員	はい。
山田市長	あとは、良かったですか。このような流れで。 では、先ほど、事務局の方から説明があった進め方で今年度の総合教育会議は進めさせていただきますと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。 それでは議題の1は終わらせていただきます。 議題の2になりますが、「教育振興基本計画の見直しについて」を議題とさせていただきます。この点についてまず事務局の方から説明をお願いします。
事務局 (武藤学校教育課長)	<p>それでは「教育振興基本計画の見直しについて」説明をいたします。以後、着座にて説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>この計画は、教育基本法の規定に基づくもので、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策、その他必要な事項についての基本的な計画とされております。当市では平成30年度までの4年間を計画期間として平成27年に策定しておりますが、機構改革前の策定でありまして、子ども未来課関係の記載がなく、また教育大綱の方向性を踏まえた内容にもなっておりません。そこで、今回の見直しにあたりましては、1.平成30年度から教育大綱の対象期間に合わせて平成34年度までの5年間の中期計画とする。2.全体を総見直しして大綱の方向性を踏まえた具体策を落とし込むと共に子ども未来課関係の施策や取り組みの記載を追加する。3.基本理念の実現に向けた各主体の目指す姿を位置付ける。ということで、市民像、家庭像或いは</p>

	<p>教育委員会像、行政像などを追加記載する。4. 見直しにあたっては教育関係者など多方面の意見を聴取する。以上、4点の方針のもと作業を進めていきたいと考えております。</p> <p>最後に見直しのスケジュールについてのところになりますが、既に教育委員会事務局各課で作業に着手しているところでありますが、第4回の総合教育会議での最終の協議・調整による見直し作業完了に向けまして、来月以降の定例教育委員会でも随時協議をし、併せて第3回までの総合教育会議で市長とも協議・調整を行いまして、考えを共有しながら進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。説明は以上です。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。この教育振興基本計画の見直しの進め方ですけれども、ただいま、事務局の方から説明があったような方向で進めていくということで、皆さん、よろしいでしょうか。ご意見があれば。「こんなところをもっとこうしたらどうだ」とか、何かお持ちであればご意見を承りますけれども。</p>
村上委員	<p>いいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
村上委員	<p>前回の教育委員会会議でもちょっとそういうようなお話が出まして、子ども未来課の部分であるとか、色々なことでまず簡単な概略的な意見は出ました。</p> <p>私の方から注文させていただいたのは、子ども未来課の関係については別途計画の方がありますので、あまりそれを盛り込んで長くならないような形でしていただきたいというようなことと、あと、色々な部分で個々におっしゃいましたので、これから事務局が作る文案について、議論を重ねて色々足したり引いたりして、最終的に総合教育会議でお見せするのかな、という感覚でおります。若干ですが始めております。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
滝教育長	<p>今の補足ですけれども。今、村上委員がおっしゃったのは、これまでになされてきていること、これからやることも混在していくと非常に膨大な量になるということで、できる限りこれまで取り組んできたことについては抑えて、これから何をやっていくか。それが明らかになるような計画にしたいという、そんなご意見だったように思います。</p>
山田市長	<p>はい。具体的に内容を当然、これからどうしていくのかという議論に入っていくわけですが、今回はとりあえず進め方。その辺はいいですか。今、事務方の説明があったような方向性で。</p>
村上委員	<p>反対に言うと、もし市長さんの思いとかお考えがあれば、お聞かせいただけると…。方向的なものでも。</p>
山田市長	<p>いやいや、見直しの方針の中にもあるように、大綱で「担い手が本気で向き合っていこう」ということでしたので、今まで教育振興基本計画の中になかった—いわゆる「市民像」だとか「教育委員会像」だとか、そういった担い手の取り組むべき理想をきちっと位置づけて、それがそれぞれの個別の部分に反映されていくような、そういう流れが重要だと思っていますから、そこにザクッと書いてありますので、今後、個別の議論になっていった時に色々、調整といいますか、意見交換というのを具体的にしていくことになるのかな、というふうに思ったんですけれども。</p>
滝教育長	<p>いいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
滝教育長	<p>現在、まだ作業中で1つの案が出て来れば、「ここをこうしたら」「ああしたら」という意見も出てくると思うんですけれども。今の市長がおっしゃった3番の③番で</p>

	<p>すね、これの。「各主体の目指す姿を位置付ける」ということなんですが、現在は「教師像」、「学校像」、「子ども像」という3つの側面からしか記載がないということで、色々な方が色々な関わり方ができるだろうということで、それに加えて「市民像」、「家庭像」、「教育委員会像」、「行政像」などすべてが犬山の教育に関わっていくんだという意識で計画を見直していくということでもありますので、そんな視点で現在見直しをすすめているところでございます。</p>
山田市長	<p>あとは、少し次の議題にも絡むんですけども、要するに教育改革の検証とも若干連動してくるところもあるのかな、というふうには思いますので、検証しつつ、今後の基本計画の中にそこら辺をどういうふうの方針として位置づけるのかというのは、当然並行して考えて行かなければいけないことだな、と思います。</p> <p>まず、今日は見直しに向けての取り組み方といいますか、進め方についてのことで、すから、そういう形で進めさせていただくということでもよろしいですか。</p>
事務局 (武藤学校教育課長)	<p>いいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
事務局 (武藤学校教育課長)	<p>申し訳ありません。資料の方が1カ所間違っておりましたので、今の資料2の下から3行目。第4回総合教育会議の後の括弧書きですが、「平成29年」となっておりますが、「平成30年」の誤りですので、申し訳ありません。訂正をお願いいたします。</p>
山田市長	<p>はい。では、見直しにあたっての進め方については、先ほど事務局からの説明があったような形で見直しに着手していくということで、お願いしたいと思います。</p> <p>では、議題の3番目ですが、「教育施策の検証について」事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>失礼します。主幹の神谷と申します。よろしく申し上げます。着座にて失礼いたします。</p> <p>資料3をご覧ください。「校長会と教育委員会による教育施策に対する検証作業部会」という資料です。犬山の各小中学校では「犬山の子は犬山で育てる」という考えのもと、数々の施策を講じてきました。その成果については継続して検証しており、教員自身はその成果を体感しています。しかし、現実問題として解決しなければならない課題は存在します。少なからず中学3年生の進路指導に不安を抱いている保護者がいることも避けられない現実です。児童、生徒、保護者が効果を実感できるような工夫改善の余地を残していると考えています。質の高い授業や個に応じた指導は教職員の働き方改革によってクリエイティブな仕事を生み出せる教職員の物理的、心理的余裕を生み出す取り組みにかかっていると思っています。そこで、実効性、即効性を求め、校長会と教育委員会の共同作業部会を設置し、働き方改革を実行し、多忙化解消に向けた提言をまとめていきたいと思っています。</p> <p>作業部会には、左から「部活動の運営ルールを策定すること」を当面の目標とします「多忙化解消検討部会」。この部会は、教職員の本来の業務に従事する時間を充実させるために業務の精選を図り、教職員の働き方改革を進めます。まずは1番、校内部活動運営ルール。市教委案の検討ー6月までに。3番、夏季休業中の休校期間。これを7月までに決めます。4番、働き方改革の市教委案の審議。後ほどまたお示しをいたします。</p> <p>次に「評価評定検討部会」は、評価評定の手法をどのように保護者に示すかを探ります。透明性、客観性をどのような手法で示すかがメインの課題です。併せて道徳の教科化。小学校の「英語科」を見越して通知表の変更にも活動範囲を広げます。通知</p>

	<p>表の作成作業量増加が予測されますので、行動所見のあり方、記述内容の精選による保護者会での伝達方法を踏まえて検討いたします。評価評定部会としましては、③番、前期所見の記述について、⑤番、評価評定方法の開示。それらを中心に早期にまとめていきたいと思っています。</p> <p>次に「犬山プラン推進部会」です。「授業改善犬山プラン」などの犬山独自の施策をより推進させるために原点に立ち返り新たな方向を探る部会です。教科力向上、教師力向上がメインテーマです。子どもたちの学力向上に向けた効果的な長期休業の活用の仕方、教科部会、学年部会への働きかけ方。二学期制の特徴を明確にした3年生の進路指導の手順について、また授業改善推進委員会の活動を支援し、方向性とゴールを明示します。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。皆さんの方から何かご意見があれば、お願いします。どうですか。何となく検証というのは、僕はゼロベースで検証しなければいけないと思っているんです。今やっていることの前提とか、犬山の中だけの検証では、それはお手盛りの検証になりかねないので、その検証の仕方はもっともっと間口を広くして、検証しないと検証にならないと思うんです。そこは強く求めたいです。それが見えるようになっていないと。その検証というのは、今までの取り組みについての成果だとか課題だとか、そういうことがきちっと明らかになった上で、「これからこういうふうにしていこうよ」というものが見えないと、「検証した結果こうなりました」では何がどう検証されて、なぜ次にこうしていくのかわからないので、そこが見えるようになるといいですよ。多忙化の評価もそうだと思うんですけど。何か今やっていることが素晴らしいということを追認するような検証に思えてならない。今、やっていることが「だめだ」と言っているわけではないです。ですが「検証」というのは、やはり保護者の皆さんの色々な理解も含めて、「何をどう検証したのか」というのがきちっと皆さんの腹に落ちて行かないと「次、こういうふうに進んで行きましょう」というのがそれもなかなか理解されていかないので、「結局何も変わらないんじゃないか」というふうになってしまうと思うので。「検証」というのは、そういう検証になるといいな、と思っています。もっと言うと、僕はいつも言うんですが、情報のアンテナを高く敏感にしないと検証というのはできないと思うんですよ。ですからこの検討部会に携わっている人たちが、情報のアンテナをどういうふうに張って、検証しているのかというのが、もっと見えるようになるといいですよ。それは先進県の取り組みであったり、先進市の取り組みであったり、民間の取り組みであったり、その情報のアンテナを、やはり敏感にして「これからの取り組みにこういうことが活かせるのではないか」とか、何かそういうところも欲しいです。</p>
滝教育長	<p>いいですか。多分、市長がおっしゃることは「こういうふうかな」と思うんですが、まず1つは、これまでも犬山市の教育委員会は教育施策については検証をしてきていると思うんです。ただ、その検証の結果、外へ出る部分が「こういう成果がありました」「こんな成果もありました」ということで、課題があまり表に出てこなかったような気がするんです。課題はあるのにその課題をあまり表に出さずにそれに対して「どう対応していくか」という具体策もとってきたのかどうかかわからない部分があったと思うんです。ですからもっと課題の部分を明らかにして、この課題を解決するために何をしていくのか、ということを確認をして欲しいということがまず1つだと思います。それからもう1つは、今までは内輪だけで検証してきているのではないかと。もっと外の目から見た犬山の教育の良さや問題点を外の目から見て明らかにしてもらおう方法も取る必要があるのではないかと、ということではないかと思っておりますけれども。そう</p>



	ですよね？
山田市長	まあ、そうですね。
滝教育長	イコールではないかも知れませんが。
山田市長	やはり客観的に……。検証というのは、色々なものを比較検証する部分もないといけけないので、それがやはり客観的な立場から検証されているということでない、皆、内々の人間で「今までやってきたことは素晴らしいですね」って検証結果が出て終わりというのは検証にならないので、その検証の仕方をもう少し工夫した方がいい。この今、部会でやっていることはいいんです。これはこれで。しかしここだけではなくて、やはり検証するというのは、「何をどういうふうと比較検証したのか」というところが見えないといけけないのかな、と。成果というのもそれがやっている人たちの出す成果だけではなくて、やはり色々なデータだとか現場の状況だとか、そういったものに基づいて客観的にそれがどう検証されたか、ということだと思っんですが。
村上委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員	今まで年度末に決算か何かで評価か何かをもらっていましたよね。監査委員かな？色々な事業について。
事務局 (武藤学校教育課長)	はい。評価……。教育委員会の施策、取り組みの評価－自己評価です。そこに後ろに外部委員の方の意見が付いて。
村上委員	そうですね。そこに課題も書かれていたはずだと思うんですが。
事務局 (武藤学校教育課長)	はい。
村上委員	正に今、おっしゃった市長の求める教育施策に係る検証とここの下の部分は若干…。まずはこれは自己評価みたいなものかな、と。今まで教育委員会で私どもも課題というのは、お話をしてきました。例えば少人数学級については成果を上げている。ただし、少人数指導については、先生によって教え方が若干異なる部分があって、それは見直すべきではないか、ということ。それから各学校においては、教科書の他に教本だとか副教材を買っています。変な話、学校に行くとパラパラとめくっています。「使っていないじゃない？」「先生、プリントも作っている。忙しいね」「もうちょっと見直してはどうですか」ということで、東部中学校では当時の校長先生が大幅に教材を見直して縮小してやったということをされています。ですから多分、市長さんがおっしゃる検証の施策－云々、かんぬんということで行くと、多忙化も緊急的な課題ではありますが、犬山プラン推進部会の方が学校の立場に立って施策については、「これは良かった」－良かったことももちろん検証ですから。続けていくということで、「これは良かった」「これはもうちょっと見直すべきだ」というような感覚で犬山プランをやっていただくと、この犬山プランが教育振興基本計画になってくるので、「これっってもう一度立ち止まって、ここの部分を少し検証しましょうか」というような形になっていくのではないかな、と思います。ですから、この間も教育委員会会議でこの資料を確かに見せていただいて、皆さんで意見を言ったんですが、多忙化解消のものについては、「取り組めるものからやっていきます」ということで今日、議題もあるんですが、そういうようなお話がありました。評価・評定も本当に道德とか英語とか今の部分について学校が考えるべきことで取り組んでいく。だから、教育施策に関する検証作業部会ということでは「犬山プラン推進部会」に私は期待をしていますし、自分たちが一番よく知っている課題－「こうして欲しい」－そういうことが、出てくることを期待しているんですが、市長がおっしゃるように、「全体が中ばっか

	<p>りではないか」という部分はあるんですが、まずは中で洗い出しをするというのも検証の結果、「こうしなさい」という部分には、まずは身内で色々課題というふうに認識しないと「直せ」と言っても「いや、大丈夫です。」「教育は不変の世界です」と言われてしまう部分があるので、まずは、身内で中から課題を出して、それについて「こうしていきましょう」。それに対して教育委員は色々な分野におりますから、色々な意見を言わせていただく。それについて、市長さん方も色々「こういう部分については、これは課題ではないですか」、「これはだめですよ」とかそういう形でいくのかな、ということで少し急激にパッパッパとできないかな、というような若干気がしております。</p>
滝教育長	<p>いいですか。結局、この部員を見ると学校現場の人間だけです。まずはもとを作るにしても、1年間、これだけでずっと進んで終わってしまうのではなくて、ところどころで、例えばPTAの会長さんたちの会でご意見をうかがう。もちろん教育委員の皆さんもそうですし、中には先ほど一これから話題になる民間教育者とのどうこうという部分もあるんですが。それについては色々なところから意見を聴いてそれを踏まえたうえで、成果や課題を自分たちの中だけのところだけではなくて、「もっと他のところから色々言ってもらえ」ということのように私は受け止めたんですけども。</p>
村上委員	<p>最初から色々な方の意見をもらおうと、ちょっと收拾がつかなくなるので、まずは今一こんな言い方をして失礼なんですけど、学校教育というのは、あまりに閉鎖的というイメージがあります。イメージだけだと思うんですが。まずは、自分たちがもう一度原点に帰って課題なり何なりを整理するというところから始まらないと、同じような形になるので、まずは自分たちで課題とか検証というのをしてから、それから外部の方にそれについて意見をいただくというふうにしないと、多分、最初から外部の方の色々な意見を入れると、色々な意見が出ると、それを整理・整頓するだけで字面が並ぶだけで全く実の無いものになるのではないかなと思うので、学校教育に関してはやはり校長先生方、先生方が課題となっているものという生の忌憚のないような課題とか解決策、それがとてつもないお金のいることかも知れませんが、まずは出す。それが重要でこういった資料が出たのかな、と。最終段階で、意見をいただいて調整とかもう1度フィードバックして考えるというものが必要な、と思います。そんな感じがします。</p>
滝教育長	<p>まず第1段階は自己評価をして、それを外部の方に見ていただいて、色々ご意見を伺い、これだけのものをこういうふうにしたり、整理したり、まとめたりしてその上で成果・課題を明らかにし、課題についてはこれからどうするか……</p>
山田市長	<p>少し……。微妙に違います。僕はいきなり外部の人間を入れて「検証しろ」というものを求めているわけではなくて、今、ここで検証しようとしていることは、犬山のやっていることを犬山に関係している人が検証しようとしているだけにどうしても見えてしまう。そうではないかも知れないけれども。ではなくて、やはり事例の検証というのは、国内だろうが国外だろうが、いわゆる教育のあり方というのは、幅広く様々な事例があるわけで、そういうことも含めて犬山の取り組みと、例えば先進的な他に何かこういう取り組みをしている所とか、色々なやり方があるわけなので、それぞれの取り組み方についての、メリットだったりデメリットだったり成果であったり、そういうものがきちっと客観的に検証されながら進んでいくといいね、というふうに思っているわけなんです。だから、「これからこういうふうに変えていきましょう」とか、「この部分は磨きをかけていきましょう」とか、そういうものが何か見えるといいな、というふうに思うんです。</p>

村上委員	<p>いいですか。</p> <p>そういう意味でいくなれば、学校だけということではなくて、教員の多忙化で教育委員会事務局も忙しいでしょうけど、教育委員会事務局の方で、今までの施策について「どうだったのか」というのを、ちょっと話し合う会を設けてもいいと思います。学校は学校。だから、これは費用対効果という視点が当然、事務局でやると入るんですけれども。そういう部分も教育委員も一緒になってやって、私どもも県外で今までそれこそ福井の方の統廃合の事例だとか小中一貫教育だとか、色々他県の状況も勉強をさせていただいておりますので、色々な知識はあるはずですから。そういうものと折り合いをしながら、課題というのを見つけていくと振興基本計画にも活かされていくのかな、という気はします。ただ、これはこれでちょっと走り出したので、これはこれで動いて事務局でそういうようなことを小規模でもいいので、出来ればー</p>
山田市長	<p>いや、例えば少人数が本当にいいのかどうか。少人数前提で考えるでしょう？ 本当に少人数がいいのかどうかという検証はしたのかな。しているんだと思うんだけど、今までは。だけど、やはりそれを何か客観的に検証できるものがないと、「何を検証したの？」ということにならないかな。全部。2学期制も学区も全部。</p>
村上委員	<p>よろしいですか。引き続き。</p> <p>年度末にいつも評価して、先ほどお話があった……評価していただく部分でも例えば図書館や市民会館は数字で出やすいんです。「何人来所しました」とかなんとか。確かに少人数授業ということになると、成果が出たのかー極論ですが、いじめが減ったのか何か減ったのか、そういう部分の数値的な検証というのが、市長の思いはわかるんですけど、非常に難しい部分ではあります。</p>
山田市長	<p>わかります。というのは教育なんていうのは、その時教育を受けた子どもが大人になってどうなったかというところのフォローアップまでしないと、それが妥当なのかどうかなんていうのはわからないわけで、もっと言うとそういうところまで含めて検証しないといけないということなんです。本当は。今、目の前にあることだけ検証したって、その制度の下で育った子どもがどうなったか、というところが大事なわけで。だから、検証というのは非常に奥深い話で、今、携わっている人たちが今の制度を前提にして検証するだけでは、深い検証にならないということを言っているわけです。そこはちょっと工夫して欲しいな、ということです。</p>
千葉委員	<p>いいですか。これを出していただいた時と、今の神谷先生のご説明で例えば、3年生の進路指導の場合、やはり2学期制、3学期制も影響して保護者からそういう声も上がっている。だったらということで検証する。私はそういう見方をしているものだから、これはこれで今、上げていただいてー陸上大会のことでもそうですが、やはり話し合っただけではずっと毎年毎年この時期にこれをやってきた。でも一度ゼロから見直したらどうですか、と、他市へ働きかけてもいいかな、とも思うので、とにかく犬山でまずは、今、出していただいたものが全てではないと思うんですが、ここで話し合っただいて、この部会で。それをとにかくやって、手遅れという言葉は悪いですが、まず、最初から「これだ」というのはなかなか難しいと思うから、1個ずつそうやって話し合っただいて「これはちょっとこっちだよ」「こっちだよ」ということは出てくると思いますので、1年まずこれでやっていただいてーと私は個人的には思いました。</p>
山田市長	<p>あとはいいですか。</p>
高木委員	<p>すみません。</p>
山田市長	<p>はい、高木委員。</p>

高木委員	はい。今の事務局とそれから市長とかのあれは、本当に奥深い問題だな、と。全部を検証するのはなかなか時間もかかるだろうし、大変なことだな、ということをお思いますので、その中で特に「これを」というのをまず絞り出してもらって、それを例えば半年かけて、1年かけてというようなそういうぐらいのスタンスで進めていった方がより深いものにできるのかな、というような気もしました。今、パッとみて、やらなければいけないことがやはりいっぱいあるような気がしますので、今言った例えば少人数のこの部会については、部活動のこととかーというような感じでとりあえずもう少し絞り込んだ形のものを1回きっちり検証して、そこからまた広がってまた次にーというような形にする方法もあるのかな、ということも思いました。
山田市長	はい。あとはいいですか。どうですか。
紀藤委員	いいですか。
山田市長	はい。
紀藤委員	<p>教育を数字で表すということは、できないです。なかなか評価というのは非常に難しいです。主観が入らず客観的と言っても、例えば簡単な例でいくと「多忙化」でも多忙だと思っている人もあれば、思っていない人もいます。だから、それを数字で5段階で全部表そうということになると一統計をとって、これをやっている、多忙化かどうか4段階評価でもいいから、評価しない限り、数字では表せない。客観的に出すというのは非常に難しい作業で、でもそれをやれば、例えば3学期制をやっていた当時の子どもたちと2学期制をやっている時の子どもたちの違いは何か。メリット・デメリットもあるし、それを比較しようと思うと他市町村で市長さんが言われるように3学期制をやっているところの子どもの状況と比べるんだけど、もう比べる子どもの「もと」が違うし、地域が違うとそれは本当に比べたことになるのだろうか。だから、学力試験みたいなもので、学力だけでみるとこうなんだけれども、他の面で見ると違う。不登校の数を見るとこちらは多いけれども、こちらは少ない。例えばの話です。だから2学期制がいいのかな、とゆったりと考えているからいいのかな、と思ったり、少人数でやることによって、先ほど言ったようにいじめが減っているんだよ。すごく穏やかに子どもたちはやっているんだよ、ということと繋がるのかな、繋がらないのかな、というそういう検証も難しいけれども、長年やってみえる内部の先生たちがどう感じているかというのは、僕はすごく大事なので、まず内部で評価してもらい、それを見ながら我々はやはり学校訪問もしているのだから、校長先生方にも話ができるので、聞いていてそれで、また1つの評価ができるのではないかな、と。僕も極論を言うと、少人数で昨日もやっているTTでもやっているんですよ、授業を。でも「ここってTTでやる必要があるの？」と思うんですよ、僕自身。でも子どもたちはどうとらえているかわからない。すぐに来てみてもらえるから、TTでやると二人の先生がいるから、僕たちの方に目を向けてくれるからいいと思っているかも知れないので、子どもたちにもそれをとらなければいけないから、そういう評価をしない限りなかなか主観がやっぱり入っているだろうな、と思っています。だから人それぞれ考え方が違うと思うので、制度が変われば色々なやり方が変わるとまたガタガタとくる部分があるので、長い目で教育をやったり見ていく必要があると思います。ゆとり世代だった子どもたちが今、大きくなって、問題があるから本当に今、改善しているのだろうか。その辺のところ。それから生活科が始まって10年経って、検証がなくそのまま20年と続いていっている。本当に生活科は良かったのだろうか。そういう検証をされていない。そして今度は英語科が始まる。英語科はいいのだろうか。英語以外に今度はプログラマーを育てるわけではないんだけど、プログラムを作るよう</p>

	<p>な人間を育てて欲しいとか、またそれをやらなければいけない。だから検証どころかそうやってどんどん来るだけで、どんどん多忙化もしていきだろかな、と。だから僕は今、見ながら、色々な接触をしながら評価を自分の考えをここで出して、それで皆さんに聞いてまた現場の先生方が「では、こうするとどうだろうか」ということでもっていきかないんじゃないかな、と思っています。10段階で3だからだめ。9だからこのまま続けろとかね、そんな数字では出てこないような気がしますので。市長さんのおっしゃる外部からの声を聞くことはいいと思います。他市町村と比べるのもいいと思います。この話の時に僕は前、一宮市に務めていた時に一宮市では朝の部活動を全部なしという施策になったんです。その検証はされたかどうかは僕はわかりませんが、一宮市の先生に聞いてみるのもいいかな、と。たまたま僕はA校に居たので、A校と言ってはいかんけど、合併する前には丹葉地区にいたので、ずっと同じ一宮市になっても部活をやっていました。朝部活。教育長さんから「もうそろそろやめなさい」と言われたんだけど、「地域を考えるとこれはやめられませんよ」という話をしたら「そうか」と。その時に「やる」と「やらない」とどう違うか。「やった方がいいよな」職員はみんなそう思っていたんです。でもどんどん一宮市から新しい先生が来る。「先生、これをやるよりも朝、勉強をした方がいいのではないのでしょうか。」そうするとまた無くなったところに新しいものを当てはめるものがあるのでは、これは部活動を無くした意味はないのではないかな。子どもたちにゆとりを持たせる意味はないのではないかなということ、蹴った覚えがあるんですが、それは独断でやったので、是非、そういう比べるといことも僕は大切だと思うので、この検証をしていったら、検証の後をまた見て、そういう人たちと相談する機会を設けてもいいのかな、と思っています。すみません。長々としゃべりましたけれども。</p>
山田市長	あとはよろしいですか。
奥村委員	では。
山田市長	はい。
奥村委員	<p>多忙化の解消についてというのをするために、検証をすることによって多忙になっているのではないかな、ということが……。学校訪問に行かせていただくのに学校訪問するのに授業の色々なことを作り上げる先生方がそれによって多忙になっているのではないかな、というようなことがすごく見受けられるんですね。なので「これをやりなさい」、「これを検証しなさい」、「これを……」ということがどんどん積み上げていくことによって通常の学校の「子どもたちに向けて」ということが、どんどん減って行って実際に先生方が一番忙しいのは授業を作ることよりもそれ以外の親御さんの対応が多くなってしまったりとか、そういうことが多いような感じが見受けられるんです。検証するのももちろん学校側もそうなんですけど、どこを検証するかということが、僕はちょっともう1つ目を向けた方がいいのではないかな、と。先ほどの「子どもから見ればどっちがいいのかな」。少人数で受けていて先生にこっちから見ると1人の先生でやればいいじゃないの、と。でもそれは力のある先生がそこにいたからその力のある先生が1人でできる。でも力のない先生は1人ではできないと思うので、それをいかにしてやっていくかということをもう1度……。そういったものを一評価の仕方というんですか、そういった所をもう1度見直してみるのもいいのではないかな、と思います。</p> <p>あとは実際の子どもたち、あまり保護者の声というと、非常に偏りがあるので、実際の子どもたちの声を聞くのも率直な意見が出るのではないかな、と。例えば「先生がこういうところを見てくれない」とか、小学校の場合は、全教科全部が1人の担任</p>

	<p>の先生が見てくれるんですけども、中学校になるとそういうわけにはいかなくなると、孤独感が生まれる子もいたりとか、ではどういうところで、そういった子どもたちを拾っているのかというと、やはり先生から見ると「ちゃんと見てますよ」というのはどれだけでもアンケートは出ると思いますが、そういったところが何か拾えていけるといいのかな、と。評価というか検証ということにもなるかな、と思います。</p>
山田市長	はい。ありがとうございます。
紀藤委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
紀藤委員	<p>何か問題があるから、僕は「それでいいのか」という検証もあると思うんですけど。「今、進めているけれど少しは自信がないから、本当にこれで進めていいか」という検証もあると思うので、例えば市長さんがおっしゃったように、2学期制の問題だと色々な問題が出てきたから、「ここはどうするんだ」「ここはどうするんだ」といったら、「この段階をこうすればいい」という工夫が入ってきて、それで本当に良かったかどうかは実践してもらわないと出てこないと思うんです。それを「では2学期制を元の3学期制に」と言われると、ガラッと変わりますから、また大きな戸惑いが出てくるような気がするんです。だから、「変えた」－変えたには何かの理由があつて変えてきたのですから、僕はそれをよりいい方に持っていく検証を一問題点があつたら、そこを解決をしていく検証をしていけばいいと思うので、ここに細かく具体的な内容も出ているので、これでまず内部でやっていただくことが一番ベストではないかな、と。それで、やっているんだけど、教育委員として我々も見ながら「やはりこうやってやっているけれども、そうかな？」という疑問を呈すれば、もう1回他の人に聞いてみるということで、やはりそれが一番いいのかな、と思いますけど。</p>
山田市長	<p>はい。少し僕も茶の木畑に入りかかってしまったので、全然、違う方向に行くような話をするかも知れないですが、「そもそも検証は学校の先生が部会でするのが検証なのかな」と今、一瞬違和感を感じ始めたんです。この教育委員の皆さんが検証して、教育委員の皆さんが方向性というものを見出していく側面もあるのではないかなと思うんです。部会はあくまでも課題の洗い出しだとか現場の状況だとかそういったところを現場の部会で色々やらしてもらえばいいのですが、「どういう部分をどういうふうに検証していくのか」という着眼点も含めて、ここが課題設定して、ここが検証して、ここが司令塔になっていけばいいのではないかと一瞬、思ったんですけども。「ここ」というのは教育委員会が。これでいくと、現場の先生が検証して、「これで問題ありません」で行っちゃうだけの話ですよ、多分。現場の先生が検証しているんでしょ、これは。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	そうです。
山田市長	現場の先生では検証する立場じゃないでしょうか？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>市長が言われる部分はわかりますけれども、現実問題として、解決しなければならぬことはいっぱいあると思ってます。それに関して今までどうしてきて、どのような方法が良かったのか・悪かったのか。そして、それが上手く取り入れてない学校にはそれを取り入れてやっていこうか、と。そういうような検証は僕は現場でも必要だというふうに思っています。</p>
山田市長	<p>現場で考えて、現場で検証して、現場で改善するというのは、それはその現場の努力というのでやらしてもらえばいいんですけども、僕がさっきから言っているように、色々な事例を研究したり、今、目の前にある課題に対してどう対処するかというのは、</p>

	見る角度を、やはり幅広く色々な角度から見た方が事の本質がとらえられるので、そういう検証をして欲しいと言っているんです。それは最終的に客観的な立場ということか教育委員の皆さんがそういう立場で最終的な検証をしていただければいいと思うんですが。
村上委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員	とりあえず、この資料でも一前回の教育委員会でも申し上げたのですが、とりあえず事務局の方に教育委員会事務局の教員出身というか、そういう方がみえるので、「これは随時、教育委員会にも報告をしてください」ということで、お願いをしてありますので、途中段階です。その報告を受けて、それに関して「そうになっている」「あなっている」というのは、委員から言えますし、最初に申し上げた少人数指導についても学校訪問で色々な意見がありましたけれども、「『本当にそうなの?』」というのを検証してください」ということで、昨年度かなにか予算の時に少し見直して、そちらを特別支援だったか何かの方に振り当てるとか何とかというようなことは個々にはされているんですけど……
山田市長	ちょっと話を遮って申し訳ないんですけど、検証するのを一検証作業があまりにそれが忙しくなって、多忙化してもいけないんですが、やはりどこかでは検証していかなければいけないと思うんです。物事を。だけど、ここは自分たちで検証する項目を自分たちで設定して、自分たちでやっているだけじゃないですか。これは。例えば2学期制。2学期制がいいのか3学期制がいいのか、ということは見えてこないです、ここには。その前提がもう「2学期制」を前提にして検証しているわけじゃないですか。それで2学期制の課題を対応しようということ、で、「保護者の説明をやっていこう」と、ここに書いてあるんですが、でもその前段で2学期制を続けたいというなら、「なぜそうなのか」というところがないんです。
奥村委員	これ自体は、校長会が部会を作ってされて、教育委員会に跳ね返ってきて、ここで一教育委員会で一番右の「具体的な事業計画」のところの(2)の②のところにも「市教委への通知」で教育委員会で再度検証をするということになっているので、まるっきり校長会だけでやっているというものではないので、僕は問題ないかと思います。今、言われた市長の「教育委員会が主導で」というのは、ここの四角の中には入っていないですが、これ全体は教育委員会の方で見ているという。
山田市長	わかりました。それは教育委員会と現場とのやりとりで、擦り合わせているわけで、ここは総合教育会議ですから、私が問題提起をしているわけです。
村上委員	わかります。
山田市長	私が。
村上委員	ごめんなさい。そもそも一こんな事を言って申し訳ない。なんでこの資料を今日出したの?という雰囲気なんです。だから、今、すれ違いがあるわけですね。多分、市長がおっしゃる教育施策に関する検証という部分と、学校現場が「中長期的な課題だよ」と捉えているものと。ちょっとすれ違いがあるので、本当に検証ということ言えば乱暴な言い方ですが、事務屋がやるのは「予算を5パーセント減らして、あちらでやっているからその部分で検証して無駄なところを省いて新たに……」というようなことはよくやるんですけど。だから、具体的な資料を渡すとこれについて、「こう」「こう」と。まずは中でやるということであれば、こういう総合教育会議に出すのではなくて、出し方として、「教育委員会の課題は何ですか」……。これから。市長が深く考えている課題、教育委員会が考えている課題、学校が考えている課題、こ

	ういものについて、議論する場でトークしてくればいいのですが、全員これが出ると、「なんで身内だけでやっているの？」というふうな話になるので、少し教育委員会（事務局）も資料の出し方とか……
山田市長	それは僕の方とすり合わせをしていますから、この資料については……。資料はですよ。内容ではないです。
滝教育長	ごめんなさい。資料を出すように指示したのは私です。
村上委員	そうですか。
滝教育長	<p>犬山市の教育改革—教育は、教育委員会と学校現場と歩調を合わせてやってきた教育改革なんですと、私は認識しているんです。教育委員会が現場にやらせたわけでもなく、現場が教育委員会に猛烈にアピールしてということでもなく、一緒にやってきたことなんです。だから、個々にどうこうではなくて、やはり「少人数のための常勤・非常勤の配置はどうだったのか」ということは現場だけではなく、教育委員会も一緒になってやはり考えていなければいけないことなんです。だから現場でやっていくのではなくて、教育委員会も事務局のメンバーの入っていますし、だからその辺は、教育委員会がもし単独でやらなければいけないということであれば、少人数の配置が適切だったかどうか。施策として。でも、学校現場に常勤・非常勤を配置した責任、その責任を検証するのであれば、それで本当に子どもたちが力がついているかどうか、ということ現場と教育委員会と一緒に検証していかなければいけないと思うんです。だから、これは現場が勝手にやっていくことでもないし、教育委員会が勝手にやっていくことでもないし、神谷先生とも現場で—私も現場に居た人間ですので、「みんな一緒に考えて行こう」と。「いいよ。いいよ。」と今まで来たのではなくて、「こんな問題点があった」「ではその問題点を解決するには今後どうしていけばいいだろうな」という視点でやっていこうというものなんです。</p> <p>それで、これを今日、出したのは、検証、検証と言っても「何も教育委員会事務局は動きかけていないではないか」ということが私は……。ではなくて、「既にやりかけてますよ」、「こういうふうに動きかけていますよ」と、もしこの動き方について色々ご指導がいただけるものなら、この場でご指導いただければ結構です。これも進みかけている部分でありますので、「ここはこうしろ」「ああしろ」という部分であれば、そういうご意見も取り上げたいと思います。先ほど市長の「中だけではなくて、外の意見も」ということであれば、これがある程度ものができた段階で、「では外から一度意見を聴いてみようか」「中だけではこういう見方しかできなかったんだけど、外から見るとこんな意見もあるよね。では、もう一度その時点で我々の取り組みを見直してみようか」という、そんな意味合いなんです。</p>
村上委員	ですから—ごめんなさい。これはこの間、教育委員会で私たち、資料を見せていただいて意見を言いました。それを今日の会議で出すというのは、これは協議題というよりは、どちらかと言うと「市長さんに報告をして意見をもらう」という。ここでまたやり出すとこうなってしまうので、そういう部分のすり合せを少し今後はしていただきたい。次の資料4とか5も教育委員会でこの間、もう色々、お示しをいただいて、意見は言いました。「これについて意見を」と言われてもこの間言ったことをまた言うてしまうのか。という部分があるので、少し「市長さんに報告をして意見をいただく部分」と、本当に総合教育会議で「どうしましょう」ということをやるのは、ちょっと整理・整頓していただいた方が。だから教育施策に関する「検証について」ということであれば、それをテーマにして外部の人に「実は今、中でやっていますから、こういう段階で外部の人に……」とか、少しそういう整理の仕方をしないと、私自身



	<p>が「この間教育委員会で言ったのに、また今日、意見を求められて、何を言えればいいんだろう」と、少し戸惑いがあったものですから、もう少し大きな括りでここは議論する部分と、市長に報告をして「追認」というと、少し変ですけど、意見を伺う部分と少し分けた方がいいのではないかな、と。「すり合せはしています」と言われたのですが……。</p>
山田市長	<p>教育委員会の皆さんが現場とすり合わせて、色々、こういうものの道筋をやっておられることは、それは全然いいんです。ですが、ここの総合教育会議で、これは市長部局として、僕の立場として、「こういう観点で、もっと検証をできないのか」ということを、意見を申し上げる場がここなので、だから意見を言っているわけで、これはこれとしつつも、「もう少しこういう観点でやったらどうだ」ということで、さっきから言っているように、「いきなり外部の人を入れろ」と言っているんじゃないくて、検証の視野をもっと広げないと、1つの方向だけからそれを見ても、この本質はとらえられないので、例えを分かりやすい表現で言っているだけで、例えば「2学期制か3学期制か」というのは、「2学期制だけを前提にして考えるのではなくて、もう1回そこをちゃんと全体として検証してはどうか」ということを、あくまで単なる例として言っているだけで……。</p>
滝教育長	<p>多面的、多角的に検証しろということですね。 これを出したのは、やはりある程度進んでしまってから、「こうだ」「ああだ」というのではなくて、やはり一步一步、歩みながら、「今、こんな歩みをしています。どうですか、ご意見をお聞かせください」ということで、出して欲しかったので出したんです。だから神谷さんが悪いのではなくて、これは僕が僕の責任で今日、ここへ資料を出していただいたんです。</p>
山田市長	<p>これは……資料を出すのは、「こういう内容で」というのは、当然事前に僕も担当から聞いて、ただその説明を受けた時も随分、時間をかけて話をしたんです。そこでも。ですが、結論が出ないまま、そのまま時間がなくなってしまったので、何かモヤモヤとしながらここに臨んできたというのは、事実なんです。</p>
村上委員	<p>ですから、私たちがいただいた時のこれに関する部分と、今日、市長がおっしゃった……</p>
山田市長	<p>それは、別に事務方が悪いわけではないので。</p>
村上委員	<p>もちろんですよ。</p>
山田市長	<p>僕もちゃんとそこで、事前の今日に臨む事前の打ち合わせで、そういうことをちょっと言えなかったのが、だからここで申し訳ないですが一事務局の顔を潰しちゃったように申し訳ないですが、そうになってしまいました。ただ、さっきから言っているように、もう少し多角的に検証する形で進めていただきたいと、それだけの話なんです。単純な話。</p>
村上委員	<p>できれば、これは今度の総合教育会議までにもう少し資料を作りますか？</p>
滝教育長	<p>これはもう歩き始めていて、それぞれの部会でどういうことが一ということがあるので、また今度の時までには1回少し相談して。</p>
村上委員	<p>あんまり細かくならない感じで。</p>
山田市長	<p>これは、いつも江口部長なんかと僕はよく話をしているのですが、犬山のいけないところは、犬山のことで見るんですよ。で、どこの自治体と具体例出したら申し訳ないですが、いけない所と比較してもいけないんです。日本で一番いい所と比較して検証しないといけないんです。比較すると必ず自分の所と同じぐらいのレベルか下手すると自分の所よりも悪いところと比較して。これではいけないんです。日本で一番、</p>

	<p>世界で一番の取り組みをしているところを、例えば参考事例として、「今、犬山の状況はどうなのだろうか」と。これは数字で見えるものばかりではないし、数字が全てだとは僕も決して思っていない。しかし、「何をどう検証したのか」という、いかに幅広い視野で検証したのかというのが、僕ではなくて、ちゃんと市民的にそれが伝わっていかないと、恐らく「犬山のこれはなぜこうなの？」というのがなかなか皆さんもすっきりしないと思うので、単純な話で幅広い視野で検証する。そして検証する項目もやはり、僕は前回もこの教育会議でかなり何点か申し上げているので、こういう観点をこの総合教育会議でも考えていったらどうかということを一問題提起はしているので、そういうところを少し汲み取っていただきながら、考えていただくといいな、というふうには思っているんです。ここで、すぐどうこうというのはないので、あくまでも僕は今日、そういう意見として申し上げたので、もう1回教育委員会の皆さんも含めて、よくまた揉んでいただいて、そういうことでお願いしたいと思います。</p>
紀藤委員	<p>これは同じものが出てきたので、定例教育委員会と同じことを言っただけなんだけれども、やはり自分たち内部の人が問題点を自分たちで見つけて、自分たちで解決しようと努力する、その自助努力というのか、これは僕は犬山を高く評価していいのではないかな、と思うので、是非、この3部会で新たな局面を迎えて行けるといいと思います。</p>
山田市長	<p>そうですね。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>それはそこで終わらずにそれについて色々意見を言ってもらうのが目的だと思うんですよ。</p>
山田市長	<p>自ら努力しようとしているのは、非常に僕も現場の人たちは頑張っているとは思っているんですけど、くどいようんですけど、もっと広い視野でやっていただくとさらにもっとよくなると思うので、そこを強くお願いしたいと。で、観点は前回の教育会議で僕は何点かここでもうボールを投げていますから、そういうところを汲み取って欲しいということをお願いしたいと思います。</p> <p>では、いいですか。検証は。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>ありがとうございます。</p>
山田市長	<p>またこれは今後も少しここで話題にしたいと思いますので。お願いしたいと思います。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>はい。ありがとうございます。</p>
山田市長	<p>では、多忙化についてですが、事務局の方からお願いします。</p>
神谷主幹兼指導室長	<p>前回の定例教育委員会は、この3番、4番と一緒にして提案をして、次の項目のところは教育委員会では「スケジュールを少し示していただけたら」ということで、その部分が改善されているものです。資料としてはほぼ同じものです。</p> <p>資料4をご覧ください。この内容は丹葉教育事務協議会でも既に共通の懸案事項として継続的に情報交換をしながら調整を図っていくことが確認されているものです。項目ごとの文章の頭に示しました記号が取り組みの期限を示しています。4番のところの二重丸が「短期」を示してあるもので夏休み前に完了したいというもの。それから、「長期」は黒の三角印、これは来年度も検討が必要であろう、今年度だけでは解決しづらいだろうというもの、というふうに印を付けてみました。この印の根拠は、教育委員会の姿勢に合わせて、校長14名にそれぞれの項目において、「ゴールはどこなのか」という問いをしました。「『やるか・やらないか』」ということでは『や</p>

	<p>る』けれども、やはりもう少し時間がかかる」というものを「中」、或いは「長」として答えてきています。それを反映しています。特に本日この中でご意見を賜りたいと思っていますのは、「夏季休業中の休校日の設定」。それから「前期通知表の新たなフォーマット」－簡単に言ってしまいますと、所見を特別なものだけにして、あとは保護者会で口頭で伝えていく－前期の所見ですね。それから3番目として「犬山市の部活動の運営方針について」これが資料の5になります。同じようにこの資料の5も前回定例教育委員会が出したものとほぼ同じですが、頭のところにタイムスケジュールを入れたものです。</p> <p>この3点において、特にご協議いただけたらな、と思っております。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりましたが、皆さんの方から何かご発言はありますでしょうか。今、「所見を口頭で」とおっしゃいました。そういうのは、いいんですか。さっきの色々な保護者の人だと一要するに通知表を簡素化するという話でしょうか？</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>はい。所見に関してはです。</p>
山田市長	<p>そういうものが、変な話、「また受験に不利になるんじゃないの？」とかそういうふうに思われることはないですか？</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>受験に不利になるということは感じられないと思うんですけども、今まで文章があったものが、なくなった。きっと楽しみに読んでいただいていたと思いますが、それがなくなるという部分では淋しさを感じられるところはあると思います。それでも保護者会をこの時期、7月の保護者会を通じて「こんなことが……」</p>
山田市長	<p>所見を口頭で述べるのは、口頭で述べるものを書いてあるのではないですか？ ひょっとして。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>それは、手持ち資料として持っています。</p>
山田市長	<p>そうしたらそれを渡したらいいじゃないですか。その通知表に書いてあるのと一口で言うものを準備してあるんでしょう？ 同じではないのかな、と思ったんですけど。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>今後道徳が来年度から文章表現で所見として、約150字ぐらいになると思うんですが一もう少し少なくなるのかも知れませんが、所見で書くことになります。それで、その次は英語科と進んでいきます。その中でやはり何か取り除けるもの、他で代替できるものということで考えているんですけども。7月の保護者会で丁寧に、そこに書いてあるものとはいうものの、それはもし文章にしてお渡しするとすると、校長まで含めてずっと回覧をして、下書き、本書き、通知表への下書き、本書きと4回ぐらい回っています。校長、教頭、教務、校務、学年主任、担任とこの6人がそれだけの工程を繰り返します。その作業量というのは大変なもので、口頭で丁寧に伝えるをしていくことの方がいいのではないかとということです。</p>
山田市長	<p>通知表はそういうところを簡素化すると、さっきの風評被害ではないんだけど、「これは不利になっているんじゃないの？」と勝手に尾ひれがついて、そういうふうにはなりませんか？ 僕も取り越し苦労かも知れませんが。大丈夫ですか、そこは。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>私は大丈夫だと思っているんですけども。</p>
高木委員	<p>その点については、私もいいんじゃないかとは思いますが、神谷先生はすごく苦労をしてみえる現場を……今、言われたように親と子どもの立場になってしまうと、「なし」と書かれてしまうと、その言葉があつてしまうと、やはり何か子どもたち、親もがっかりする部分は正直あるのが……。その代わりに道徳のそういう所</p>

	見を……。現場の先生たちは三十何人分の1人1人のものを作ること、それ自体はものすごく膨大な時間がかかることはもちろん承知はしてはいるんですけど、それを何とかということで「保護者会で」というのが苦肉の—「苦肉」という言い方は変かも知れませんが、出てきたことだろうな、ということは重々理解できるので、難しいところなのかな、とは思いますが、単純に一市民、一保護者という立場で言うならば、やはり「なし」と書かれてしまうこと、その言葉自身に何らかのがっかりとかショックとか、期待する部分がきつとあるものだから、という……
山田市長	「なし」と書かれるの？
滝教育長	特記事項「なし」ということですね。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	特記事項「なし」です。
山田市長	「なし」と……。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	今「所見欄」となっているところを、今の案では、特記事項を書くような欄にします。そこに特記事項は「なし」というふうに表記をします。
山田市長	それは丹葉地区で協議して、丹葉地区で全部そうするということですか？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	いえ。実はもう行っているところもあります。でも、丹葉全体で整っているということはありません。
滝教育長	もともと通知表というものの性格は、教育委員会がどうこう申し上げることでなくて、校長が校長の責任で保護者に子どもの学習様子を通知するものであります。ただ、色々通知表に対する不満は、教育委員会に来ると思います。今、おっしゃったようにこれは決して書いてはいけないと—「特記事項を『なし』で出せ」ということではないんです。なかなか特記事項に書くものがない子がいるのを無理に書こうとするものですから時間を要するわけではありますが、今、色々とお話をお伺いしていると、「やはり特記事項がなしでは淋しいから目立ったところを短文で簡潔にでも書く」と……
高木委員	例えば教科委員とか委員会の—それは書きますよね。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	もちろん。
高木委員	「その他にあれば」というようなイメージでいい？ それともまた別の欄？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	今は……多分、高木委員が言われたのは、ごめんなさい。委員会を書いて、部活を書いて、表彰を書いたりという欄と、同じになるということです。
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい。
千葉委員	気持ちとして、やはり先生と保護者会でお話することによって、ただでさえ今、コミュニケーション力が—親と一緒に話すことがないものですから、所見に「落ち着いて明るく取り組んでいますよ」と、それは素直に取れるんですけども、今のメールの問題ではないんですが、言葉というのは、相手の立場に立つとまた違う取り方をされる場合があるんです。それよりも面と向かってお話されることによって、先生と親さんとのコミュニケーションも取れるし、私はお話されることの方が大賛成なんです。文で書かれるよりも。色々私のところに来るのは、「先生たちの保護者会でのお話が、とても冷たい言い方をされる」とかそういうことをよく聞くんです。やはり「なるほどな」と。事務的ということだと私は、そう取っているんですけども、やはり言葉の一つ一つでも先生と面と向かって、目と目を合わせてお話されることによって、そこで親さんが「この先生は信頼がおける」と思わせるような、それも1つの機会で

	あるし、だから書くよりはお話をした方が私はいいかな、と。それも犬山らしさの良さであるかな、と思っています。
村上委員	いいですか。
山田市長	はい。
村上委員	特記事項を書くのはどういうものが想定されるんですか。例えば。
千葉委員	所見？
村上委員	特記事項に。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	夏の大会を経ておりますので、その時に出た結果とか、そういうものをお示しすると。もちろんそれ以外にも担当が伝えたいことがあれば、先ほど教育長も申し上げましたけれども。
村上委員	私が小さい時は、それを担任に書いてもらったことで、親子のコミュニケーションが取れたり、必ず先生はいいところと悪いところを書いてくれるから、悪いところは親がそれを見て、「ほらね」という感じの部分があって、何か「特記事項」という欄が「なし」ってすごく冷たい雰囲気はするんです。とても。
滝教育長	だいたい、学習面、行動面、それから特別活動。3つぐらいの観点から書くんです。みんなが本当に際立った所見を書けばいいんですが、欄が結構……枠があるものですから、いっぱい書くわけです。それこそ150字ぐらい書くのかな。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	もっと。150字を超えますね。
滝教育長	そうなんです。その150字をまず担任が作らなければいけない。学年主任はそれをチェックする。校務主任にまわす、教務主任に……先ほどのルートで行くんです。それで書きなおす。書きなおしたものをまた回す学校もある。で、いずれにしてもまた清書する。清書したものをまた回すんです。だから、「満タンに書かなくてもいい」ということをまず先生方が認識をすることかな？ やはり何もないというのは、考えてみたら……。
村上委員	ちょっとさみしい。
滝教育長	ですね。そう思われる方もみえるので、僕はこうやって出してもひょっとしたら先生方はなんだかんだ書かれるんだろうな、というふうに思うんですけれども。
奥村委員	いいですか。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	はい。実際の保護者からしてみると。やはり書いていただけることが非常に一先ほど村上委員が言われた「親子のコミュニケーション」が取れると思うんです。先生方はほぼ毎日宿題の3行日記というのを書いて、その返答をしているので、ではそれを毎日ではなく、週1回に。そういったところを減らしていただいて……。2学期制なので、年にたった2回の親と先生とのコミュニケーションの書いたものは僕はとても大事にしたいな、というふうに思います。
紀藤委員	はい、すみません。
山田市長	はい、紀藤委員。
紀藤委員	相対評価から通知表が絶対評価に変わったところで、各学校で通知表の見直しをし、学校独自の通知表を作ったところもいっぱいあると思うんですよ。その段階で「所見はどうするか」とか、「もっと行動については、こういうふうにやれないだろうか」と全部見直しをしてきたんですけども、僕は犬山市の通知表を見ていないので、いけませんけど、通知表がどういうふうになっているのか。全校一緒ですか？
事務局	はい。丹葉では。小学校は違う独自のものを使っているところがありますけれども、

(神谷主幹兼指導室長)	中学校は丹葉では一緒です。
紀藤委員	それで全部、プリントアウトではなくて……。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	プリントアウトです。
紀藤委員	<p>それで、そのところで多分、これを言っているのは所見の欄ですよね？「所見」と言われている。そこを以前はこんなことを書いた時代もあるんです。懇談時に。それも学校の校長先生独自の判断で、それでどうするか。次に校長先生が替わると「いや、それではいかん。やはり淋しいから、皆書いてください」と。そうすると書き始めます。そうすると高木委員が言ったように「委員会、何々委員会。」「委員長。委員長としてよくやっている」とか、そこで評価をしてあげる。で、独特の何か特長のあることだったらそれを含めて書いてあげるということでいく。でもそれを書くのも大変だとは思うんです。僕もそういう立場になったときは1,000枚全部点検しましたので、その点検能力が今、細かいところ誤字・脱字とか、そういうものを見つける能力になっているのかな、とは思いますが、校務主任、教務主任、教頭先生、それから校長先生がみんな1,000枚を全部みて、間違いがそれでもあるという……。だからそういう意味でいくと、一人一人「この子はこんな子か」という僕はやりとり先生とのやりとりの材料にも使わせていただいたけれども、確かに膨大なエネルギーが必要だと思います。それで奥村委員が言われたように、「そうか、そういう部分で減らすことができるな」ということは思ったんですけれども、そういう日記を書いていると、以前新聞でもあった自殺をほのめかしたのに、先生は何の返事も書かず、何の対応もしなかったという材料になっていってしまうという。そんなことも考えると、先生は色々なところにメイクバリューも必要だし、それもやらせるなら所見も僕はちょっと一筆書いてあげる。「よろしい」だけでもいいから書いてあげて、「頑張ってるね」でも一言でも書いて、やはりやり始めたからにはずっとやらせてあげたいな、と。</p> <p>ですから通知表そのものの見直しをした方が、その欄をこんな字を書くんだよと小さくするとか……。</p>
奥村委員	このくらいですか？
村上委員	結構大きいですね。
紀藤委員	これは小さく書きますものね。
奥村委員	でも、ちょちょっと書いてくるだけなので、読むと本当に一言ぐらいの感じにはなるんですけど。
紀藤委員	2学期制になって、そういう手間も実は多忙化としては減っているんですよ、犬山市の場合。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	一度減っているのは大きいです。
紀藤委員	はい。3学期制でやっているところよりも減っているということも考えると、無くしてしまうことをもっと簡素化するという方法があると思うんですけれども。保護者の立場になると、一言、本当に短くても……教育長が言うように短くてもいいから簡潔に書いてやるのがいいのではないかと思います。
滝教育長	教育委員会でどうこうというのは……。教育委員さんも市長も多分お考えは変わらないのだから、これはもう削除しましょうか。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	削除でよろしいですか。
滝教育長	削除……表現を変えよう。

事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。
滝教育長	だから、表現を変えて、もう「一言か二言書いてもいいよ」というふうに。最終的には校長の責任だけれども
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	コンセンサスは当然大切なことだと思いますけれども、最終的に校長の判断で。現在行われていないところもあるので、そういったところまで入ると、「そういうお気持ちがあった」ということはお伝えをしながら、「丁寧に保護者に連絡をして欲しい」と。
滝教育長	書いてもらうようにしましょう。
紀藤委員	今、校長先生の判断ですね。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。
山田市長	あと3つとおっしゃったけれども、どれでしたか？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	1つ目が夏季休業中の休校日。お盆休みぐらい。もう1つは部活動です。
紀藤委員	よろしいですか、お盆休みのところ。
山田市長	はい。
紀藤委員	お盆休みは十分とってもらえばいいのではないんですか。本当は県の教育委員会からもその期間はもうメール発信をやめていただけると、点検をしなくてもいい。文章も来ないということがわかればいいと思うんですけれども。
滝教育長	神谷先生、今の……
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	1つ目は「夏季休業中の休業日の設定」。
滝教育長	⑨ですね。1ページの。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。それから2つ目が今、話題になりました「前期通知表のフォーマット」。3つ目が「部活動の運営方針について」です。(資料4の)(3)番のところにもありますけれども、これを受けて、今、資料5をこの部会では進めておりますので。ですから資料の5の方を見て頂ければ。
滝教育長	資料5の特に「これ」というのではなくて、全体を見て……
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	そうです。はい。
村上委員	いいですか。⑨の学校休校日はどうでしたっけ？ 全部教員は出てくるんですか？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	出てこないという方針です。
村上委員	出てこない。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	日直、管理者を置かないということです。
高木委員	もう置かないんですね？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	年末年始のお休みと同じです。
滝教育長	もう既に稲沢はやっていますし、扶桑もやっている。今年から丹葉管内3市2町全部で行きましょう。「行きましょう」というか、「行きましょうか？」というところですよ。
山田市長	いいんじゃないですか。それは。

滝教育長	お盆の期間というのは、日直がいてもほとんど電話もないし、お客さんもなくて。
奥村委員	1つ。
山田市長	はい。
奥村委員	万が一、そういう時に何かあった場合というのは、どういう……。
滝教育長	教育委員会にご連絡をいただくように。教育委員会は必ずおります。
奥村委員	はい。
滝教育長	それも事前にお伝えすると同時に、学校にも玄関に張り紙をして、こうならないようにはしたいな、と。
紀藤委員	すみません。休業中一番心配するのは、学校のガラスが割れるとかがあるので、近くを通りかかったら職員は必ずぐるぐるっと外回りぐらい回るような、それだけはやらないと……。
滝教育長	恐らく年末年始も－12月末3日、1月の初め3日ですが、4役で当番を決めて学校を回ることになっています。これは教育委員会が「学校を休校日にしろ」と言いながら「学校を回れよ」というのは、矛盾したことでありますので……。この辺りは多分校長先生方も重々承知をしていることだと思いますので。
高木委員	花の水やりとか。
山田市長	あと、部活はいいですか。
村上委員	部活はこれでいけばいいのではないですか。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	この太字になっているところが、部会の中でも懸案事項ということで、今度6月の8日の校長会に提案することです。太字でない部分はほぼ現在、もうこの状況で進められているというようなものがほとんどです。
山田市長	これは保護者との合意形成というのはどうなっているんですか。合意形成というか説明というか……。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。お手紙をこれに合わせて1つ今、用意をしているところですが。その内容についてもこれと並行して検討していくところです。
紀藤委員	まず資料5の(4)の「休日の活動について」という－この欄ですよ？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	今、先生は資料5と言われましたか？4と言われましたか？
紀藤委員	5です。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	資料の5の……。
紀藤委員	「第3日曜日『家庭の日』は活動を行わない」これは……
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	これは教育委員会としては、是非、したいんですけれども……
紀藤委員	OKですか。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	現場としては、これはきついという意見が出てきています。できれば、兄弟、親戚みんな同じ日に休めるという設定ができやすい－もう既に県としてもこれを取り組んで行こうという方針でやっているものですから、こうしたいと思っているんですけれども、現場の意見としては二重丸にならないということで、一重丸です。
紀藤委員	それは大会等の関係ですね。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	そうです。
紀藤委員	あとは、練習試合。



事務局 (神谷主幹兼指導室長)	そうです。どちらかと言うと大会の方が多いかも知れません。
紀藤委員	大会の時は除いて、そういう時期だけ除いて、後の時期—冬場とかそういう時は、できる時はもう極力こういうものを行っていけばいいのではないですか。現場の先生方も決まっているとすごく気持ちよく「活動なし」と言えるのではないのでしょうか。 それから「週休日の土日、どちらかを休養日とする」のも、どこでも今、進んでいるので、土曜日か日曜日、体育館の割り振りもあるだろうから、こういうふうにきっちと「うちは日曜日にやるけど、土曜日はやらないよ」というとバスケットとバレーボールを自由に使い分けたりできるので、是非これも早目にやっていければ一番いいのかな、と思いますけれども。
山田市長	はい。あとはよろしいですか。 説明だけ、要するにわかりやすく、「なぜこうするのか」という。目的はここに書いてはあるんですけども、
高木委員	すみません。いいですか。
山田市長	はい。
高木委員	この間の定例教でもお話をさせてもらったんですけども、今のと逆行するような言い方をしてしまうのかも知れませんが、やはり部活が大好きな子どもとか先生もいるような気がします。それは、部活動の指導というのは、生徒指導の大事な柱の1つであるというような私は認識でいるんですけども、実際問題として多忙化の解消を考えるなら、「こういう施策もせざるを得ないのかな」と思いますけれども。神谷先生なども部活命でやってみえた先生なので、そこら辺のところの兼ね合いはやはり出て来るのではないかな、と思いますので、本当に部活をやりたくて仕方がない生徒、先生のそこら辺の配慮—配慮という言い方でいいのかはよくわかりませんが、何かもう少しきっちりしてしまうのではなくて、もう少し柔軟なことを盛り込むこともできないのかな、ということだけ思います。
滝教育長	今の例えば校長に申し出た場合については—
高木委員	やり方が色々あるとは思いますが……
滝教育長	これは僕はもう1つ思うのは、教員の多忙化だけではなくて、子どもたちの健康保持というのもねらいの中に入れておかなければいけないかなと思うんです。
高木委員	試合間近になると例えば私なんかは、3年生だけでやったとか、「1年生は全く休みだよ」とかいうようなところも、そういう工夫というか……。そういうところは、「真夏の暑い時に1年生は球拾いばかりするということは、もういい」と。「3年生だけでやるぞ」とかというような感じで工夫しながら進めていく方向は……。
滝教育長	がんじがらめにするのではなくて、多少……。
高木委員	そうです。そういうイメージです。
村上委員	それから先生方の表現が割と一さっきの通知表もそうですけど、道徳や英語の評価が増えていくとか教員の多忙化とか言うんですけど、それはわかっている人の理由であるので、例えば「こういう日を設けてコミュニケーションをとってください」とか、色々なことでやる。ただ少なくとも—今おっしゃったんですけど、生徒が「やりたい」って言って、先生が「しょうがないな」とやるのはいいけれども、先生が「出てこい」というのだけは極力……。親から「そういう通知が来ている。先生から言われたから出て行った」ということが無いようにだけはしていただくと。そこは少し注意をよろしくお願いします。

事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。
山田市長	はい。他にいいですか。 これは多忙化の解消のためにやるんですよね？ 今の話で、4と5というのは。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	多忙化の解消－働き方改革です。
山田市長	そうですね。
紀藤委員	いや、そればかりではないです。5の資料の目的の丸の3つ目を見ると、子どもたちに「余暇の善用」というところを……
山田市長	本音はどうなんですか。これは今、紀藤さんがおっしゃった部分もあります。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	先ほど高木委員が言われたように、僕は……プライベートで言えば一人で言えば、部活動を取り払っただけで、多忙感が減るとはあまり考えにくいです。一番多忙にしているところは、そこではなくて、先ほどの150字と校長は言うんですが、それだけではおさまらずに300字近く書く人もどうしても出てきます。それが今度道徳で2倍になる。新しいことがどんどん入ってきます。それは必要なことなので、やらなければいけないことだと思います。けれども、何かをとらなければそれが行えないということ……
山田市長	いや、なぜそういうことを聞いたかという、多忙化の解消を目的にしているのであれば、今、多忙な状態が100だとしたら、これをやることによって「100のものが80になったよ」とか、それが見えなければいけないということです。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	それは見えると思います。
山田市長	これは言葉で書いてあるけれども、なんとなく「ああ、こうやったら多忙化が解消されるな」ということになると、では「何時間時間が生み出されたのか」とか、それは急に時間では出せないかも知れませんが、そういうものが見えるようにしていかなければいけないということです。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	それはすぐできると思います。これをやれば必ず数字として出せます。現在、在校時間として出ているものから比べると随分それは減るのは間違いないです。ただ、多忙「感」が減るかどうかという、それは違うところなので……。
山田市長	ただ多忙「感」も大事ですね。人間、やはり時間的な忙しさよりも精神的な多忙感で、自分の判断を間違えたり、色々なミスが起きたりすることもあるし、或いは本来やるべきことに集中できなかったり。ですから多忙化と多忙感と両方だと思うんですけど、そこをこういう取り組みをしていく時には、これをやったことによって、それがどう変わったのかというのが見えるようになってくるといいな、ということをお願いしたかったんです。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。これを取り払うだけではなくて、そこで生まれた時間を「こんなふうに使おうよ」という提案も同時に行っていって、さらには授業づくりです。授業づくりを行うことによって、そして授業を作ることが楽しくなってくる。結果も出る。子どもたちの力が伸びる。それが本来の業務の示すところだということに持っていこうというのが趣旨です。
山田市長	はい。あとはいいですか。この点について。 はい、紀藤委員。
紀藤委員	先ほども言ったように。土曜日、日曜日のどちらかを休養日にするということは、これは大事なことだと僕は思うんです。確かに部活動で生徒指導という時代もあった

	<p>けれども、犬山の子どもたちを見ていると「そうかな」と。やはりある程度、地区でそうやってやらないと、自分の時間がいくらでも余っているとどちらの方にエネルギーが向いていくかという感じですけども、犬山の子どもたちはそういう方向に向く可能性は低いように僕は、学校訪問をしながら見ていると、そんな子が少ないような気がするんです。それは現場ががんばっているからではないかな、と。それにプラス、では、「こうやって空いた時間をこんなふうに使おうだよ」ということで、先生たちも生き活きとやれば、土曜日か日曜日、どちらかを休みにするということは……。僕はこれは自動車学校で言われたことがあるのですが、自動車学校では、2時間も3時間も4時間も練習したって1日では上手にならない。次の日、また1時間やる。また次の日、1時間やったら上達する。休みを入れるからまたできるんだ、と。でも水泳の先生に言わせると、1日休むと3日体が戻るから、ずっと続けなければいけないという方もありますけれども、だからどれが正しいということとはわからないんですけども、僕はやはり子どもたちにも休みを持たせるということとは、これからの人生を豊かにしていく材料としてはいいのではないかな、と。先生が多忙感云々ではなくて。「どうやって時間を使って行こうか」というところに持っていかせる。そうすれば読書に持っていく子もあれば、他のところに持っていく一余暇の善用得一持っていく子もいるのではないかな、と思っています。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。 よろしいですか。では、5点目。「民間教育者との意見交換会について」ということで、これは事務局から。</p>
事務局 (武藤学校教育課長)	<p>はい。「民間教育者との意見交換について」、本日の資料としてはございません。この件につきましては、先日開催されました5月定例教育委員会において、昨年12月議会の一般質問の会議録の写しなどの資料をもとにご協議をいただいております。「もっと外に目を向けて広く意見を聴く姿勢が求められている」との共通認識のもと、2時間程度でポイントを絞ってテーマを決めて実施する。或いは「塾関係者だけではなく、学校に関わる学習支援者など広く呼び掛けたらどうか」。また、「塾の先生から見て『犬山の教育改革をどう思いますか』といったテーマはどうか」などのご意見が出ました。最終的には教育振興基本計画の見直しの参考にもなるようなアンケートをまず実施してみて、その集約した結果を踏まえて、テーマを決めて意見交換会を開催するとの方向性で、その場は意見がまとまったのではないかというふうに理解しております。本日はこの方向性を出発点に、市長と教育委員会でご協議をいただければというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
山田市長	<p>何か皆さん、意見はありますか。</p>
村上委員	<p>だいたいそういうような……。</p>
山田市長	<p>アンケートもいいのですが、我々としても振興計画の策定に対してとか、犬山の教育の取り組みに対して、民間の立場からどんな意見があるかとか、或いはこちらの側から民間の方の取り組みで学ぶべきところがあるのではないかとか、双方向の一お互いの情報交換の中での活かし合いというか、「ここはうちは取り入れられるよね」というところが見えてくると思うので、実際現場でやっていただいている先生方の授業改善も民間の取り組みの中で、授業改善の参考になるようなものがあったり、或いは犬山の現場の授業なんかを民間の人に見てもらおう中で、「ここがもっとこうじゃないの」とか、「ここがすごくいいよね」と民間の方が逆に参考になったりとか、そういうやりとりができていくといいですね。いずれは。 あとはアンケートはアンケートとしてやって、では「いつやるのか」という実施に</p>

	向けた工程が見えてくるといいです。今はとりあえずアンケート。でもそのアンケートによって次を考えるということではなくて、その工程が見えるといいです。概ね「何の目的でこれをしていくのか」というのは、その考え方というの、先ほど私が申し上げた観点でやっていけると思うので、そうすると、アンケートは参考にしつつもそこまでの工程を明かにできるという一目的と工程を。
村上委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
村上委員	教育委員会でこの間出た会議のところでもご質問いただいた方が塾の講師というところで。その意見交換を誰とやるのか。教育委員？ 学校の先生？ とかから始まって、「塾の先生と学校教育はやはり……」という話を色々していきながら、ではとりあえずアンケートをとって、そこに職業という塾の講師とか何とか出てくるので、そういうものを集約していくと、課題で、これについて「ではこの方たちと」というふうな形に持ってこられないのかな、というような話でほしいは。ただ予算も絡むことですし、どういうふうにするかというの、まだあまり決まっていなくて、雰囲気的に突然パッとやるとテーマがくちゃくちゃになってしまうし、人選があれなので、ということで、「そういうところから始めたらどうかね」で終わりました。
山田市長	いずれにしても工程を一目的と「いつどういうふうに進めるか」という工程を決めていければいいですね。
滝教育長	これをやること自体は「積極的に前向きにやりましょう」ということなんですが、どういうふうにやっていくかという、私がある方にご質問をしてみたんです。議会でご質問されたということがあったものですから、「どういう場を想定してみえるんですか？」ということをお尋ねしたんですけれども、その方がおしゃるには、今まで教育委員会は、あまり外に向けてどうこうということが無かったものだから、例えば「今度教育長が滝に変わりました。主幹が神谷に変わりましたでもいい」と。まずそういう場を持つように一つまり教育委員会の姿勢として、もっと色々なところから意見を聴くような、そんな開かれた教育委員会にして欲しいという思いから、多分そういうことをおっしゃったと思うんです。だから「ではとにかくそういう場を持てばいいか」ということですが、どうせやるなら、折角お話を聞くなら、それが色々なところに反映していけるように、「まずアンケートをやってみようか」と。だから一度、今、市長がおっしゃったように、これからどういうふうについてアンケートをとって、いつそういう会を持って、どうこうというものをスケジュールを立ててみる必要がある、というふうに思っています。
村上委員	ばくっとした質問でもいいものですから。
山田市長	これからの犬山の学校教育の方向性だとかは、人づくりの方向性或いは授業づくりの工夫だとか、そういうものが官民の気づきあいの場を設けることによって、我々もそこを進化させていけるような機会になるといいのではないかと思って。だから、それも学校の中だけで考えるよりも、そういう外部の人たちから、「学校の今、やっているここをもっとこうの方がいいんじゃないの？」とか、或いは「今の計画のここをこうの方がいいんじゃないの？」というものは意見として出て来るかもしれないし、その中には参考にすべき観点も出て来るかも知れないし。だからそういう気づきあいの場というのは、今言った授業づくりだとか、計画づくりだとか、学校運営だとか、そういうものの全般に色々参考になるものがあると思うので、テーマ設定はそんなようなことでできると思うので、だからいつやるかということで。
村上委員	市長さんのお許しがいただければ、子ども未来園も教育委員会になったので、今、

	幼稚園とか子ども未来園で子どもさんがみえるお母さんたちは結構ばくつとした課題とか不安とかを持って見えるので、そうすると結構そういうもので活かして行けるー将来的なことが活かして行けるので。
滝教育長	もう1つは、結局犬山の教育づくりはみんなが担い手になると。本来子どもたちに学力を付けてやるのは学校の責任。でも学校は本当に充分その責任が果たせばいいんだけれども、そうではない場合があれば、これは塾の方にお任せをする部分も現実的にはあるんです。だから学校と例えば塾の先生方がこういう状況になるのではなくて、お互いにやれることをやっていこうじゃないかという1つの機会にしたいという願いもあるわけなんです。だから、これをやって喧嘩別れをしてしまったらもともこないものですから、お互いに理解しあって、犬山の子どもたちにお互いそれぞれの立場で頑張っていきましょうね、とまずはその場が終わればいいのか、と。
村上委員	反対にアンケートでそういう子育て中の方とか、地域の方に「あなたがこれから犬山の教育でできることは何ですか？」と聞いても結構です。これから地域とか家庭とか色々関わり合いができるので。そうすると市民としての自覚とっては変ですが、「関わるんだ」という意識を持つ意味でもアンケートに書くというのはいいかな、という気は一少し作業量はきついかも知れませんが。
山田市長	いずれにしても「やっていく方向で」というのは今、同じですから、いつどういう形でやっていくのか、ということを決めていただいて進めていただけたらと思います。いいですか、これについては。
滝教育長	はい。
山田市長	では、議題については全部終わりましたので、続いて自由討議ということで、何かこの際、皆さんの方から「こういうことはどうだろうか」というのがあればいただきたいと思いますが。
村上委員	1点、よろしいでしょうか。
山田市長	はい。
村上委員	犬山かがきプランとか、この間、年度末に学校施設整備計画というような計画も示していただきました。その「かがきプラン」の中では、「教育環境の整備」のところ「学校規模の適正化に向けた取り組みも踏まえつつ」という部分。それから「施設整備計画」の部分では、「整備の優先順位の表」があるんですが、そのところで「本市学校規模等の適正化にかかる施設整備については、この整備計画で定めた整備予定施設のそういうのに関わらないよ」ということが出ています。それから市長さんからもお話があったんですが、先ほども少し述べさせていただいた小中連携教育だとか小中一貫教育とかという進んでいる部分の市の見学をさせていただきました。地域によって一貫型と連携をやっているところが奈良でしたけれども、ありました。それで平成27年には「小中学校の適正規模、適正配置に関する手引き」ということで、文科省から通知が出ています。さっき神谷先生がおっしゃった教員の多忙化に今、部活が何か今、代表選手のようになっていますが、そもそも学校に行くと、教育長さんもそうでしょうけれど、現職の頃と教員数が本当に減っている。で、部活も指導者であるならばまだいいのですが、指導できない部活を指導されている若手の先生がいる。若手の先生は結構仕事があるということで、ぼちぼちこの文科省の通知にも書いてあります。統廃合とか色々なことに関しては当然「地域の人たちの意見を聴きなさい」ということでとても時間がかかります。この中の望ましい学級数ということで、例えばですが、小学校ですと1学年2学級以上。中学校だと授業が色々あるので、9学級以上を確保することが望ましいというふうに……

奥村委員	1 学年じゃないですね？
高木委員	1 学年 3 学級。すべてで 9 学級。
村上委員	中学校は全ての授業が……。少なくとも 9 学級以上を確保……
滝教育長	3 学年で 9 学級ですね？
村上委員	<p>だから 1 学年で 3 学級になると思います。</p> <p>というようなことが書いてあって、後の方に色々な小規模校のデメリット・メリット。それで小規模校を継続していくなら「こういう部分にきなさい」というようなことが色々書いてあります。こちらの議論も整備計画にどういう表現で今度盛り込むかはわかりませんが、前はそういうことで、「踏まえつつ」というふうで整備計画にあったので、どういう文言がいいかわからないんですけども、4 年のうちにはきつなくても最終位にはだいたいの適正規模、適正配置的なものを少しぼちぼち考える時期なのかな、と思っています。それで新城市の教育長さんに 2 月か 3 月にお聞きした時に、あそこも統廃合をちょっとやっておられるので、「先生、コミュニティは大丈夫？」と言ったら「大丈夫。大丈夫。」と言われたんですけど、深くは時間がなかったので聞かなかったのですが、その辺りの盛り込み方と、あと教育委員会で申し上げましたが、ぼちぼち子ども未来課が作られた計画には確か出生率か何かの表か何かを載せてみえましたよね？ ですから私たちは見せていただいています、「小中学校の児童・生徒の推移」ー推計？ 私たちはもらってますけど、そういうものもぼちぼち外へ出してすぐにはいなくても、徐々に「こんなに減っていくんだ」というようなことをぼちぼち頭出しをした方がいいのかな、という気はします。この通知は少し読んでみましたけれど、最終的には「市町村で考えなさい」でしたけども割と突っ込んで深く書いてあったので、その辺りの盛り込み方とか、あとは市長さんのお考えというとなりますが、今日は少しお聞きしたいな、という部分はあったんです。</p>
山田市長	<p>手引きのことは僕もわかっているんですけど、例えば栗栖とか今井とか、池野は少し増えてきたものですから、栗栖や今井という話だと思うんですが、これは子どもたちの学習環境としてどういう環境がいいのか、ということは色々な議論があると思うんです。但し、栗栖や今井については、今まで私ども一というか犬山市として定住策というのを全く何もやってこなかったんです。全く何も努力をやってこなかったんです。何もやってこなかった結果、減ったから、ではもう止めましょうというのは、それは住民とこれからまちづくりを考えていく中で、小規模だからできることがあるのではないかと、ということを追求めた結果、地域の人たちも「もっとこうなった方がいいよね」というのは、きっとその先に見えてくる時が来ると思うので、私は「少ないからすぐに統廃合だ」ということではなくて、もう少し栗栖や今井のまちづくりを我々としてチャレンジしたいな、と思っているんです。それで急に 50 人も 100 人も子どもが増えるかと言ったら、そんなことは絶対ありません。せいぜい本当に「数人が増えたね」というレベルで維持していくという形だと思うんですが、そういった頑張った結果、どうなのかということ住民と向き合って議論したいな、と思っています。何もしてこなかった結果、「減ったからもうやめます」というのは、「あなた方は何をやってきたんだ」となります。必ず。僕は、そうした小規模なところの人たちというのは、特にこれからはしっかり……小さいから切り捨てられるんだということではなくて、小さいところだけでもきちっと向き合っていくんだという姿勢をちゃんと行政として示してから議論していくべきだな、と。その結果、「もう子どもがいなくなる」となった時に地域の人たちもきっとその時には、また向き合い方が変わってくると思うので、さっき言ったように「何もやらなかった結果、いなくなったからもう統廃合</p>

	しよう」というのは、少し行政としてどうなのかな、と思います。
村上委員	ただ、手引きにも書いてあったんですが、「一部休止」一少しそこを空き校舎にしておいて、人数が増えたら再開するという話とか……。
山田市長	ただあれは特認校でしたか？ 学区関係なしにOKという。
事務局 (武藤学校教育課長)	はい。
山田市長	要するに栗栖の小学校に通える子は栗栖の子でしょうか？ だけど、別に「外から行ってもいいよ」というふうに制度上できるわけですから。だから様々な可能性を研究したり、トライした結果、こうなっちゃったというならいいですけど、定住促進だとかまちづくりも含めて努力しつつ、或いは学校制度を色々工夫したりしながら、そういうところだと「通わせたい」という人がひよっとするといえるかも知れない。ひよっとすると。ですから、そういうことを色々試行錯誤してもなお、「こうです」といった時に初めて「では次はどうしようか」ということが住民の皆さんと本当の本当に真剣な話というのでできるのではないかな、と思います。統廃合するのかどうかという話について。それは我々としてまだ努力していない。一と僕は思っています。だから努力したいと思っています。村上さんのおっしゃることはすごくわかるんです。子どもたちの学習環境として、本当にどういう環境が望ましい環境なのか、というのは、色々な議論があります。だけど、さっき言ったように定住策だとかまちづくりだとかそういうことからすると、ほとんど放ったらかしされてきた地域なので、「子どもが少なくなったから切り捨てるんだ」というのは、僕はそういう小さい地域だからこそ、今こそ向き合わなければいけないと、そう思っています。それを「少ないからここは統廃合で切り捨てるんだ」と言ったら、それは見捨てたことになる。
村上委員	私は全て統廃合がいいというふうには感じていない。ただ本当にこれから英語科が入ったりすると、英語のコミュニケーションは、小学校ですが、1人と先生でやるのかな、と。だから、もしそういうような方針であるならばもうちょっと……。今、栗栖小学校の6年か何かの子が北小学校に行っているんですね、何回か。
山田市長	そうですね。
村上委員	交流教育みたいに。そういう部分の工夫をもう少し教育の方でして欲しい。もう少し頻繁に。
山田市長	それはおっしゃる通りです。小規模なことで、不利益になるようなことがあってはいけないので、不利益になるかもしれない部分をきちっとフォローアップしていくことが大事であって、そこはやはり工夫でしょうね。
村上委員	その辺りはすごく思うので。「運動会も一緒にやっていました。」と。「それはいいことですね」とか。ただ、本当に聞くと今はなくなったけど、小学校6年から中学校に行くとき先生の声が大きいし、生徒の声が小さい、少し登校拒否気味になる子もいるとかいう話とか、あと先生自身も1学年1クラスでひどい時なんて新採の先生が行ってたりすると、大丈夫？ というような部分があったりとかメリットはメリットとして非常に私たちもお邪魔してわかるんだけど、若干不安がある部分というのは、やはり周辺校の教育なり、それこそ教育委員会が学校から言って来ないからいいと。教育委員会の方から色々「こうやってやりましょうよ」という交流の場を設けるアクションを起こさないと、なかなか栗栖や今井の良さも他の学校に伝わらないんじゃないかと思いますので、市長さんのお考えはお考えとしてよく分かりましたので、今度は教育委員会ですらやはり知恵を出して。
滝教育長	いいですか。

山田市長	はい。
滝教育長	<p>今、全国各地でやはり統廃合が進んでいます。その状況を見ると、それこそ子どもが急激に増えた時期がありました。第二次ベビーブームですか。あの時に本当にたくさん学校を作ったんです。ところがまた子どもが減ってきたものだから、子どもの数が減ってきた。「では、統廃合」ということで、もう計画的にされるんですが、確かに適正規模はあるんですけども、統廃合を進める背景には、保護者の強い希望がある地域が多いんです。保護者は少ない子どもで学ばせるのではなくて、もっとたくさんの中で学ばせたい。ところが地域の意見が違うんです、また。地域は自分の地元の学校を潰されては困る。保護者の思いと地域の思いが違う。その中で統廃合を進めていくものですから、教育委員会はあちらこちらで説明会に行くたびに周りからガンガン言われて非常に肩身の狭い思いをしているという状況なんです、この前、少し田原市のお話をしたと思うんです。学校をほぼ半分に減らす。ところが計画が途中で止まってしまった。なぜかという、小規模校をひっつけて、この子どもたちが学校へ通うためのスクールバスを走らせるために3千万、4千万という余分な経費がかかる。もともとそこに学校を置いておいた方が安く済むのに、スクールバスを走らせるともっと経費がかかる。一番大事なの、本当に保護者や地域の方が、さっき言ったように統廃合を望んでいらっしゃるのかな、と。もちろん教育委員会はそれとは別に教育施策としてそれを考えるべきだとおっしゃる部分があるかも知れませんが、私の個人的な意見—これは教育委員会ではなく私の個人的な意見は、これだけ統廃合が進んでいくと、小規模校がなくなってしまうのではないか。だったらこういう時代だからこそ、栗栖や今井のような小さな学校というのは、是非残して小規模校だからできる活動を是非させていきたいな、という強い思いを最近持つようになっていきます。</p>
奥村委員	いいですか。
山田市長	はい、奥村さん。
奥村委員	<p>先月でしたか、池野小学校で入鹿池を挟んで向こうの奥入鹿から来る子に対して、「市のコミュニティバスに乗ってもいいよ」というふうに対応していただいて、非常に感謝を申し上げたいんですが、逆に市にあるそういうバスというものを—小規模校は逆に区域が広いので、通う子が非常に困難をしているので、それ以上遠くなりたくないという親の思いももちろんあると思うんです。例えば今は3人でやっているけど、1人になったらどうするの？という。そういった時に市のコミュニティバスの走る路線を実際に使う子どもたちや、そういうものに合わせたような形に—今だと毎日ではないですよね。ですから、朝の時間帯だけをコミュニティバスを場所を路線として走らせるとか、例えば他の地区から要望がある例えば栗栖に行きたいという子があれば、犬山駅から朝そこに行くようなふうに—大げさに言うと—そういうふうにすると逆に「栗栖に行きたい」という子が増えるかも知れないし、そういうようなことも1つ市側で対応を—もう少し柔軟にしてあげると僕は現在の子たちにも非常に助かるし、保護者としても—例えば現在城東小学校に善師野台から通う子が1時間以上のかなり奥から歩かなければいけないという……。それも例えばそのこの区域を朝と夕方だけでも走るだけで、保護者さんは非常に安心するかも知れないし、そういった所によって学校に対して「じゃあもっと何かしよう」ということになってくるかと思うので、もう少しそういったところと一緒に—今ある資源を上手に使えるといいかな、とふうに思いました。</p>
山田市長	コミュニティバスは30年度に抜本見直しをするので、できれば毎日運行できるとい



	いな、と思っけていますけれども、ただ神谷先生、あそこは出発点だからいいんでしょう？ たまたま。他のところで、コミュバスが学校に通う時間帯にちょうど子どもが通う時間にあそこはたまたま合うのでいいんですが、そうでない地域もあるんです。ちょっと離れたところとか。僕はわからないんですが。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	池野の中でですか？
山田市長	池野ではなくて。他で。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	調べてないですけど、きっとそれにはびったり合っていないです。
山田市長	ですから毎日運行をしても、子どもの通学用にルート設定をして学校を回ってというのと、全体をカバーしてというのが両立できるかというのが、非常に……
奥村委員	全部が全部ではないですが、その時間帯だけ何かそういう……。上手な運用ができると……。
山田市長	そうですね。おっしゃるのは非常にわかるので、コミュバスを使ってもら分には全然かまわないし、毎日運行ができるといいな、とは思っているのですが、そういう見直しにはなっていくだろうとは思いますが、それが子どもの通学だとか帰宅の時間に合うようなバスの設定が全域に完璧にできるかということと……。
奥村委員	完璧までは……
山田市長	いや、ひよっとすると、「入鹿は乗っているけど、何故西楽田団地がダメなんだ」とか、「通学に合う時間に合わせろ」とか、極端な話。できる限りそういうことも含めて、利便性を上げたいとは思っているんですが、完璧にいけるかはわからないです、それは。
奥村委員	でもそうすると、その統廃合の何かそういうものも市がやっているという大きな形にすぐにもなるかな、と。
山田市長	そうですね。そこは少しでも今よりも便数だとか日数が増えれば使い勝手はよくなると思うので、そうすると使える子どもには使ってもらって全然かまわないと思うんです。
奥村委員	特に田舎になればなるほど電気もないので、真っ暗のところを歩いていくのかという……。
山田市長	そうですね。そういう意味では今よりはよくなるように見直しを進めていきたいと思っけていますので。
奥村委員	はい、よろしくお願ひします。
山田市長	あとはいいですか。自由討議で何かこの際、あれば。
紀藤委員	いいですか。
山田市長	はい、紀藤委員。
紀藤委員	学校の冷房、そろそろ……。なかなか、校舎の方を修繕していく感じですけど、冷房というのもまた考えて、何年後にはやっていかなければいけないのかな、と。この近くではもう済んでいるところもあるし、昨年度からやり始めたところもあるし、ここ5年ぐらい経つとあちこちで冷房になっていると思うんです。これだけ暑いとやはりそういうことを考えるのは今の時点からやっていかなければいけないかな、と。すごいお金がかかることなんですけど、是非、市長さんの頭の中にも少し入れておいてください。校舎の方の修繕とかーそこもあるし、冷房もあるし、他の公共施設もあるし。そういう意味でお金のかかることばかりですけども、是非、今後考えていただきたいと思っけています。

山田市長	<p>そうですね。学校の整備に関しては建て替えも含めて、やっていかないといけません。建て替える所も別に冷房を付ける状態ではないんです。今は。だからやはり将来的な課題というか、将来でもないのか、例えば今、5月でも真夏日になっているものですから、やはりここは考えていかなければいけない課題だなと思っているので、今、担当の方で「どうやって、エアコンを整備していくか」をどういう補助が使えるかとか、そういうことだとか、「犬山単独ではなくて、もっと広域的なエリアで、PFIの手法でやったらどうだ」とか、色々なやるための方法論を今、検討してもらっています。「では、いつやるの」と。「どのぐらいから設置に着手していくのか」という目標もある程度視野に入れながら、補助を獲得するためのアクションを起こしていかないと、急に来年「くれ」と言ってももらえないものですから、それをある程度どの時点からとりかかっていくのか、ということ視野に入れつつ今、検討してもらっているので、いずれそこら辺がはっきりしてくるのかな、ということだと思います。</p> <p>ありがとうございます。重要な課題だと思っています。</p>
村上委員	あと1点。
山田市長	はい。
村上委員	<p>この間、連休の時に葱蓼酒の小島家の特別公開があって、うかがいました。あまりのすごさに少し感動しまして、そのわりに手が入ってないなという部分はいみじくも思ったわけですが、すごく立派なふすま絵だとか庭も素敵だし、それから日本に2つしかない茶室を模したところで、秀吉がここにもたれたと聞いて、「へえ、すごいですね」という感じで説明をしていただきました。そうしたらちょうど犬山に在住の方がいらっしゃるって、「私も全然知らなくて、たまたま見てこれがあったから伺いました」ということで、協力費300円払って見せていただいたんですが、やはり磯部家や堀部家よりもすごく立派だな、という気がして、入口に茶室もあって。だから、本当に連休はすごい人でした。若い人だとか本当に人が多くて活気にあふれていました。文化財の部分でも堀部邸の方にも行ったら、NPOの方が説明してくださって、すごくわかって、5人ぐらいで。あそこは無料でしたけど、色々説明を聞きました。やはりNPOが入っているのと入っていないのでは、やはりこんなに……。個人の所有ですから、難しいのですが、やはりこれだけ違うのかな、という部分とあと、やはりPR不足。特に小島家は長谷川先生という犬山に在住の元文化庁にいらっしゃる方から本当に専門的な色々な説明を聞いたので。もう少し、犬山城もいいんですけど、多分、結構知らない人が多いので、そういう部分を色々なところでPRしていただくといいかな。1人300円ですけど、私の後にも2～3人女性の方が待っていらっしゃった。</p> <p>犬山焼きの湯のみでお茶をいただいたんですけども、もうちょっと犬山祭、犬山城以外もちょっとPRして欲しいな、ということと、あと1点が皆さんご承知だと思いますが、名古屋城の方がもう今、民間が寄附団体を立ち上げました。で、私が県にいた頃から、建物よりもあそこは石垣に孕みがあるから、あれを直すには上を壊さなければいけないという議論があって、今、市長さんは「建て替えるよ」。ただお城の専門委員会は「いや、まだ石垣の孕みから直さなきゃいけないだろう」という議論があって、色々なことでやっているんですが、私はいつも犬山城は国宝なのに、色々な計画はあるのに一前何でしたか、色々な寄附を募る方法を考えてみえると言ったんですけど、もう少し小出しに色々なことをしていく時期ではないかな、と。名古屋城は思いのほか、私見ではありますが期間はかかると思うんです。最後は企業が多分一前回の時も何かで記憶していますが、企業がボンボンと出して、県が出してというふう</p>

	<p>だったので、犬山城は国宝なので、それは県にも出してもらわなければいけないし、そういう部分のPRもぼちぼち。国宝という強みと今、人がたくさん来ているという部分で、もう少し厚かましく色々な意味で外に発信していただいても、今なら本当に年配の方も来られるし、磯部邸なんかもよくツアーでボランティアのガイドの方の説明も聞いて見えるので、私は磯部邸なんかも100円ぐらいとってもいいと思うくらいなんですけど、もうちょっとそういう部分が、串は定着したと思います。で、クリームもいただきましたが定着したと思います。やはり文化施設がこれだけお寺の桜とか色々あるので、もう少し色々PRしていただきたいんです。すごくそれは思いましたので。</p>
山田市長	小島家は、今、登録文化財に……なった？
吉野教育部長	修繕もしている……修繕も市から費用を出していますので。
山田市長	あれは長谷川さんが何かに……。
吉野教育部長	長谷川さんは委員ですから、あの人が入って修繕の時も……。
山田市長	何かの「指定を受けたい」と言ってませんでした？
村上委員	ただ、所有者がいらっしゃるので、なかなか……
吉野教育部長	県の指定を受けたいと言っていたかも知れませんが。積極的に説明をしていただいているものですから。
村上委員	特別公開をもう少しPRしてもらったりとか。
吉野教育部長	また考えておきます。
山田市長	<p>PRは積極的に……あと所有者さんのご意向もあるもんですからーということで、非常に重要な場所だと思っています。</p> <p>それから犬山城は、ご承知のようにこれからあそこをどうしていくのかというのは、ものすごく重要な課題だと認識してしまっていて、ご存知だと思うんですが、まだ史跡の指定を受けていないんです。史跡の指定を受けるための今まで調査だとか、そういうことをやって、やっと総合調査が完了して、この間発表をしました。それで、今度は史跡の指定を受けるための申請一具申というのかな？ 申請をするわけですよ？ あそこには色々な人が関わっているんで、針綱さんとか三光稲荷さんとかもあるし、成瀬さんもそうですけど、そういう関係者の人たちの同意のもとに今年度中にできれば史跡指定の申請をしたいと思っています。城山を整備していこうと思うと史跡の指定を受けていないと、受けると国の補助が有利に受けれるものですから、そういう前提をきちっと整えたい。「それで次は何をするの？」という話になったら、今の天守を当然、維持していったり、石垣を保存していったりという通常の天守や石垣の保存に加えて、元々の城山の状態にできるだけ近づけていけるような整備をしていかなければいけないと思っています。それは払い下げの後に、各地に移築された門だとか櫓だとかそういったものがあるので、現存していますから、そういったものを移築できるかー所有者さんにそれを譲ってもらえなければ、きちっと現物を調査して、調査に基づいて復元するというようなことをかなり長い時間の中で一旧にそんなことはいっぱいできないので、1つずつでも順番にそういう門だとか櫓の移築か復元かわかりませんが、そういったことを50年とかのスパンで、やっていけないかな、ということも思っているんです。プラスあそこの城山も、城山に掘だとか切岸と言って防御のために岩盤を削って絶壁みたいにしてあるところがあるんですけども、そういうものがどうしても埋まったりしているんで、そういうものをきちっと、城山の状況が元々の状態に近づくようにできないか、とか。或いは天守の門もあればいい加減なもので、ああいうものをきちんとできないか、とか、大手道のところをーこの間</p>

	少し直しましたけど、そういうものを保存計画に基づいて、やはりきちんと城山を手掛けていくということが、50年とか100年ぐらいのスパンで考える事業ではないかな、と思っているんですけども。
村上委員	天守の方はその後には？
山田市長	いや、いや。天守の維持をしつつです。今、積み立てが10億あるんですけども、今度1億か何億か……
吉野教育部長	1億ちょっとぐらいです。
山田市長	だけど9億あるからいいという話ではなくて、あと50年経つと瓦の全面葺き替えをやらないといけないんですよ？
吉野教育部長	可能性もありますね。
山田市長	莫大な金が色々かかるもんですから、9億って決して大きい金ではないんです。通常のそういう保存とか維持をやりながら、門だとか櫓の復元をしていこうと思うと、一気にやれないので、例えば20年に1つずつやるとか、10年に1つできるかどうかわかりませんが、そういうことを基金を財源にしながら或いは寄附。広く一般に寄附を募ることができるので、そういうことをやりながら城山を元々の状態に近づけていくという作業をこれからしていきたいな、と。そのためには史跡の指定が必要ですから、それを必要最小限の範囲で早く指定が受けられるように文化庁と協議をしていますので、そういう方向で。
村上委員	はい、わかりました。どうしてかな、というと、色々な今、神社や仏閣に行きますと何十年先にこれを計画していますから、瓦に名前を書いていくら寄附して下さいとかということとか、それからこの間新聞で見たら、祇園祭はまた寄附を一確か山車に乗るのに私も2,000円払って手ぬぐいと……ずっと1巡して何か行ったんですが、その他に「寄附をしてくれると手ぬぐいと何かをあげます」ということで、結構、そういうものに割と皆さん、私の年代ぐらいとか色々な方がけっこうされているので、今まで見ていると犬山市ってお金があるのかないのか、そうあるとは思えないけど、そういう寄附に頼るといことを何かあまりしてこなかったんじゃないかな、と。
山田市長	だから、それは申し訳ないですが、山田市制ではそれをしっかりやっていくというスタンスで、昨年度は鶺鴒を試行的にクラウドファンディングで寄附をいただいて200万ですけども、いただいているんです。だからそのかわり、「何をするのか」ということの目的がはっきりしていないと、「将来、門を移築します」とか「将来」ではなくて、やはりきちっと明確に「いつ」を目標に「どの」門を「どういうふう」にするということがはっきりした段階ではないと、募れないので、漠然と寄附だけ募るといことは、やってやれないことはないですけど、できればそういうことをやれるといいな、と。 もう1つ。今年度かな？ 東之宮ーそれはクラウドファンディングで古墳整備についてはもうほぼ、いつまでにどういうことをやるかというのは、はっきりしてきたので、それは寄附を募っていきますから、そういうことを積極的にやると。特にお城なんかですと登閣料が入ってきますので、市民の税金を突っ込んでやるのではなくて、基金だとか寄附で、できればそこだけでやっていけるといいな、というふうには思っていますので。そこは積極的にやっていきますので。
村上委員	ご縁があって、名古屋から犬山に来てますので、是非ともよろしく願います。
山田市長	はい。 あとはよろしかったですか？ 自由討議は。この際。いいですか。 大分超過しまして、また今回も皆さんに熱心にご議論いただきました。

	<p>では、自由討議はこのぐらいで閉じさせていただきます。 その他ということで、事務局の方から何かありますか。</p>
<p>事務局 (渡邊企画広報課 主査)</p>	<p>はい。いいですか。</p>
<p>山田市長</p>	<p>はい。</p>
<p>事務局 (渡邊企画広報課 主査)</p>	<p>次回の開催日程ですけれども、先ほどスケジュールの中でご説明いたしましたが、第2回の会議を7月中旬から8月上旬あたりで調整をさせていただきたいと思っております。夏季休暇期間と重なりますので、早急に調整させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。以上です。</p>
<p>山田市長</p>	<p>はい。ということですので、また次回お願いしたいと思っております。 その他の方も終わりましたので、事務局の方は……。もう締めてしまってもいいですか？</p>
<p>事務局 (渡邊企画広報課 主査)</p>	<p>はい。</p>
<p>山田市長</p>	<p>それではこれもちまして総合教育会議を閉じさせていただきます。 みなさん、お疲れ様でした。</p>